



編集発行者  
千葉大学医学部  
るのほな同窓会報編集部  
〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
るのほな同窓会  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp  
HP : https://www.inohana.jp/



千葉大学医学部同窓会報 第196号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

# 年頭の挨拶

## 千葉大学医学部飛躍の年を迎えて

るのほな同窓会長 吉原俊雄(昭53)



新年明けましておめでとうございます。昨年は母校の創立150周年を祝い、2025年新年を迎えて千葉大学医学部、附属病院そしてるのほな同窓会の皆様にとりまして、新たな歴史の1頁を開く年となります。2024年の同窓会活動としては創立150周年メモリアル事業の柱であり

ました「長尾精一千葉医学専門学校初代校長の胸像の復刻」、「旧本館の思い出をテーマとした記念文集の制作」、「150年前の共立病院から現在に至るまでの本学歴史年表の制作と新医学部研究棟への設置」がなされました。また、夏には附属病院大島精司院長主導の創立150周年記念式典、150周年記念ロゴ入りいすみ鉄道特別列車の運行が挙行されました。11月17日(日)は長尾精一胸像の除幕式、続いて卒業50周年および25周年の先生方をお招き

してのホームカミングデーを開催し、参加された諸先生、来賓の方々との楽しい時間を共有することができました。一方で、昨年は医学部創立150周年と共に、千葉大学全学の創立75周年記念でもあり西千葉で盛大な式典が開催されました。熊谷俊人県知事、神谷俊一市長、森友浩史文科省審議官、千葉県選出国会議員の先生方のご臨席を賜り祝辞をいただきました。そして何よりも千葉大学および医学部・病院の節目となる重要な年に医学部から横手幸太郎氏が千葉大学学長に就任されました。今後医学部および全学を通じて様々なことが発信され、動き出していくものと思います。同窓会として可能な支援を続けていきたいと思えます。また、るのほな各支部の支援と支部としての実質的活動は

千葉大学医学部  
るのほな同窓会ホームページ

千葉大学医学部  
るのほな同窓会ホームページ

ない場合でも、地域で活躍されている先生方の近況報告や寄稿文を積極的に会報に掲載していきたいと考えております。

最後に、改めて同窓会へのご支援を皆様にお願ひする所存です。よろしくお願ひいたします。

※二次元コードを読み取ることで、るのほな同窓会のホームページが開き、バックナンバー等が簡単にご覧いただけます。



同窓会 HP  
二次元コード



### 祝 叙 勲

- 令和6年 秋の叙勲
- 瑞宝重光章 徳久 剛史(昭48)
- 瑞宝中綬章 田邊 政裕(昭49)

### 最終講義のご案内

泌尿器科学  
市川 智彦 教授  
日時 2025年2月27日(木) 午後3時より  
場所 附属病院3F ガーネットホール  
演題 泌尿器科医40年を振り返って  
〈疑問はいずれ明らかとなる〉

脳神経内科学  
桑原 聡 教授  
日時 2025年3月5日(水) 午後3時より  
場所 附属病院3F ガーネットホール  
演題 神経治療学の明日をめざして

先端応用外科学  
松原 久裕 教授  
日時 2025年3月11日(火) 午後3時より  
場所 附属病院3F ガーネットホール  
演題 外科学再興 理 術 熱情 その先の夢

### 紙面紹介

年頭の挨拶	1	追悼文	22
150周年記念事業	2	欧州医学史巡り	24
総会講演会	6	雑文雑談	25
るのほな同窓会賞	6	会員から	26
千葉大学創立75周年記念式典	7	学内情報	27
就任挨拶	7	著書紹介	28
人事異動	7	地元のほな会報より転載	29
各地のほな会	8	地区のほな会報	30
叙勲感想	9	議事要旨	31
クラス会	9	学生教育	32
タッチパネル	13	編集後記	33
ホームカミングデー	18		34
	19		35
	21		36

150周年記念事業

長尾精一 千葉医学専門学校

初代校長胸像の復刻と除幕式

あのはな同窓会長 吉原俊雄 (昭53)

令和6年11月17日(日) 尾家の親族の方々20名をお招きして復刻した胸像の除幕式が執り行われました。

同窓会役員、ホームカミングデー招待の先生方、医学部事務、病院事務、同窓会



員の参加となりました。同窓会の医学部創立150周年メモリアル事業の一つとしての胸像復刻です。先の大戦時に胸像を含む多くの金

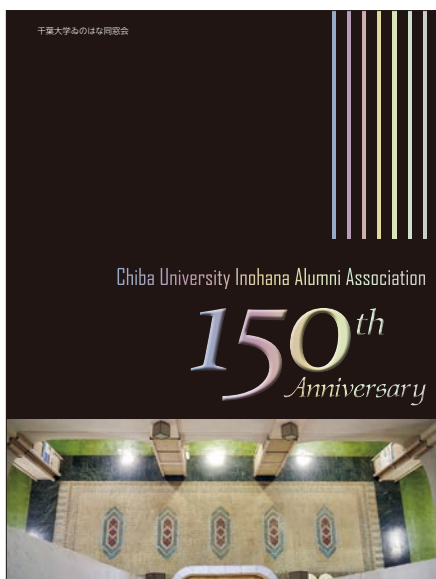
150周年記念事業

150周年記念文集発刊間近

あのはな同窓会副会長 白澤浩 (昭57)

旧本館(あるいは旧病院)の思い出をテーマとした記念文集が、創立150周年メモリアル事業の成果として発刊間近となりました。

表紙



目次2

Table of contents for the commemorative book, listing chapters and authors. Includes sections like 'I 医学部本館時代' and 'II 寄稿文'.

目次1

Table of contents for the commemorative book, listing chapters and authors. Includes sections like 'I 千葉医科大学時代' and 'II 旧医学部附属病院時代'.

### 長尾精一先生胸像再建記念

長尾精一先生は、明治13年（1880年）6月に公立千葉病院に招かれて病院長兼医学教頭の任にあたり、千葉病院が県立千葉医学校、第一高等中学校医学部、第一高等学校医学部と昇格・発展を重ねるごとに、その長として尽力し本学前身の発展に身をもって推進した功労者です。千葉医学専門学校に昇格した際には初代校長に任ぜられました。その後千葉医学は目覚ましい発展を遂げてきたことは衆人の知るところです。明治34年（1901年）12月、有志により亥鼻地区に医学図書館「長尾文庫」が建設されました。のちに正式な医学図書館が建設される際に長尾文庫は解散し、その資金の一部を用いて明治44年（1911年）4月に高村光雲彫刻による長尾精一先生の胸像が建立されました。

しかしながら、第二次世界大戦末期の昭和18年（1943年）7月には金属供出のため胸像も失われ、以後台座のみが残された状態が80年間も続いてきました。幸いにも高村光雲制作の原型塑像が千葉市立郷土博物館に保存されていたため、千葉大学医学部ろのはな同窓会は創立150周年を記念して胸像の完全復刻を企画し、ここに再建しました。長尾精一先生の多大なる貢献に敬意を表し、千葉医学の伝統を担う若者たちの発展を願う次第です。

令和6年（2024年）11月17日 千葉大学医学部ろのはな同窓会一同



明治44年（1911年）5月8日長尾精一像除幕式風景



大正初期のろのはな台と長尾精一像



長尾精一像



彫刻家 高村光雲

# 150周年記念事業 千葉医学歴史年表を製作して

千葉大学名誉教授 田邊 政裕 (昭49)

千葉大学医学部のほな同窓会による創立150周年記念事業の一環として「千葉医学歴史年表」を製作した。医学系総合研究棟3階のアクティブ・ラーニング・スペースの西側壁面に8月8日より掲げられている。タイトルにある「千葉医学」は創立135周年記念事業において「千葉大学医学部の伝統(千葉医学の伝統)言語化プロジェクト」で提起された概念である(千葉大学医学部135周年記念誌)。千葉大学医学部八十五年史で旧第一外科出身の同窓会長も務めた鈴木五郎は「大学病院が医育機関として草創以来80有余年の長きにわたり、間断することなくその使命を果たしてきた一筋には、何等の変動もない所に千葉医学の伝統が流れる」と記している。千葉医学は1874年(明治7年)の共立病院設立から始まり、千葉大学医学部として60年を経た135年間の関係する医育・研究機関、同窓会、附属病院(教室、診療科等を含む)とその構成員(ハ-


ド)及びそれらによって達成された成果(ソフト)を包括する概念とされた。今回の年表ではそれが150年となり、更に副題として「諸先輩の撓ゆまぬ努力は成生発展して今日に至り、また今後にも及ぶ」が付記された。これも鈴木木と同じ文章からの引用である。

この年表の特徴は千葉医学150年の伝統に従って、現在ある組織がどのような経緯で設置され、誰によって指導・運営され(ハード)、どのような成果が達成されたか(ソフト)を記録していることである。私が所属した小児外科学を例に説明させていざと、1976年(昭和51年)に小児外科が開設され、旧第二外科から高橋英世が助教授・科長として着任し、1984年(昭和59年)に教授に昇任した。1997年(平成9年)に大沼直躬が二代目教授、2007年(平成19年)に吉田英生が三代目教授、2020年(令和2年)に菱木知郎が四代目教授に就任した。この間にこれら

の指導者の下で「小児内視鏡の開発」、「第26回日本小児外科学会総会」、「神経芽腫骨・骨髄転移機序の解明」等の業績が達成され、それが年代順に記載されている。年表では、この150年間の各診療科・教室の成り立ちから現在に至るまでの活動がハード、ソフトの両面から可視化されており、一瞥でそれらを確認できる。組織と関係しながらも個人的に達成された特色ある業績も記載されている。川崎病を報告した川崎富作、胃二重造影法を開発した白壁彦夫、細胞周期依存性放射線感受性を発見した寺島東洋三等である。全ての成果は各教室、診療科等によって確認された情報であり、千葉医学の構成員、全員で作りに上げた年表であること強調したい。

千葉医学150年の歴史を年表から俯瞰すると、数々の業績が千葉大学医学部、附属病院で達成されていることがわかる。これらの事実から何に着目するか。私は以前にも報告させていたが(るのほな同窓会同窓会報 第189号)、千葉医科大学時代に旧第二外科、旧病理学第二講座を創始した瀬尾貞信、馬杉復三の業績を挙げたい。瀬尾

は当時手術をすれば死ぬとされていた食道癌の外科治療を教室のテーマとして掲げ、それを達成するために外科医としての心構えを柱とする厳格な人材育成を実行した。瀬尾の教えを受け継いだ二代目教授の中山恒明は食道癌の治療成績を飛躍的に向上させた。旧第二外科の伝統は、当外科のみならず整形外科、脳神経外科、小児外科へと伝承されている(るのほな同窓会同窓会報 第192号)。馬杉はドイツに留学してアレルギー学を学び、帰国後、免疫機序に由来する実験的腎炎の作製に取組み、独自の腎炎モデル(馬杉腎炎)を完成させた。この業績は遷延感作、自己免疫疾患など免疫病理の先駆けとなった成果で、石橋豊彦、岡林篤の病理学第二講座各教授によって研究は継続、発展した。免疫学は岡林に大学院生として師事した多田富雄によりさらに進展して免疫応答の細胞制御機構の解明に繋がった。瀬尾は絶対的に予後不良の食道癌の外科治療を、馬杉は生体は自己の体成分に対する抗体を産生しないことが定説とされていた時代に、異種抗腎血清を用いて糸球体腎炎を発生させる実験を始めた。不可



千葉医学の伝統言語化  
プロジェクトHP  
二次元コード


能、非常識とされていることに、敢えて挑み、それぞれの時間軸で後継者が様々な障壁を乗り越えて治療、研究を継続し、目標を達成した。これらの業績は、千葉医学の伝統として創立135周年記念事業で提唱された行動指針、begin.continue(ま

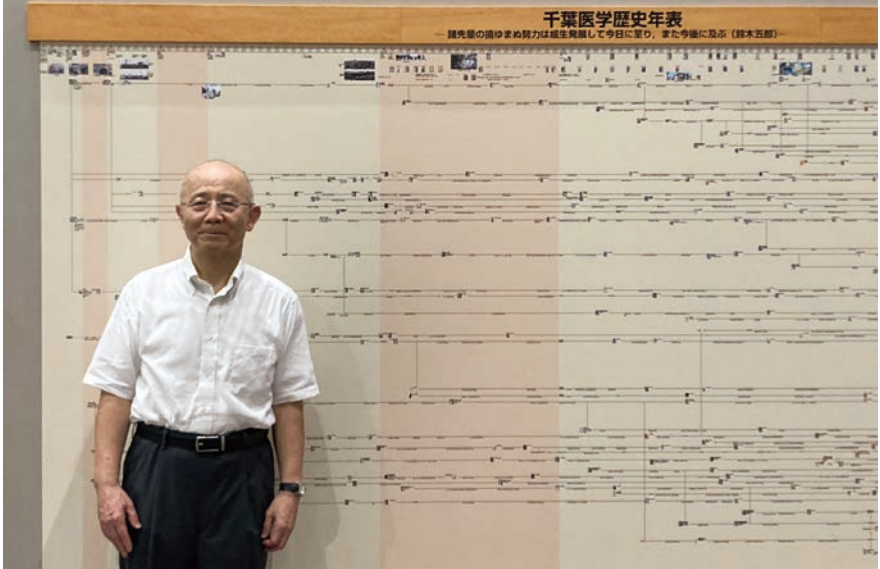
ず始めること、始めたら止めないこと)に通底する成果である。

千葉医学150年の歴史を振り返って達成された成果を紹介したが、千葉医学の今日、そして今後はこのように展開されるのか。これからの皆さんに、次の150年に向けて千葉医学の継承と共に新たな挑戦を期待したい。

年表制作にご協力いただいた各講座の先生方、白澤浩名誉教授、正文社、東京企画に深謝します。年表は今後デジタル版として同窓会ホームページにも掲載される予定です。

(敬称略)





## 150周年記念事業



令和6年7月26日  
千葉大学医学部附属病院

## これからの150年もより高きものをめざして 千葉大学医学部・病院150周年記念式典を開催しました

千葉大学医学部（大学院医学研究院長・医学部長：三木隆司）および千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥精司）は、7月20日（土）、「千葉大学医学部・病院創立150周年記念式典」を開催し、熊谷俊人千葉県知事をはじめ、224名にご参集いただきました。

千葉大学医学部と病院の歴史は、150年前の1874年7月、地域の人々がお金を出し合って設立した共立病院が起源です。式典で三木隆司大学院医学研究院長・医学部長は、関係者の方へ謝辞を述べるとともに、「この150周年を通過点とし、今後さらなる飛躍によって、教職員一同、一層努力していきたい」と決意を語りました。

式典後、講演会が以下の二部構成で行われ、来場者から多くの拍手が贈られました。

- ・第一部 学術講演会 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構（IIS）機構長の柳沢正史氏「睡眠の謎に挑む～原理の追求から社会実装まで～」
- ・第二部 文化講演会 ピアニストの西川悟平氏によるピアノコンサート



千葉大学医学部附属病院の「ガーネットホール」に  
224名の来場者が集まりました



謝辞を述べる三木隆司大学院  
医学研究院長・医学部長



熊谷俊人千葉県知事



筑波大学IIS機構長の  
柳沢正史氏による学術講演会



ピアニストの西川悟平氏  
による文化講演会



学術講演会、文化講演会の講師に  
来場者から大きな拍手が贈られました

千葉大学医学部附属病院  
ニュースリリース2024年7月26日より転載

講演

我が千葉大学

順天堂大学免疫学 特任教授  
アトピー疾患研究センター長

奥村 康 (昭44)



昭和44年卒の私は、基礎の岡林教授が主宰しておられた病理学の大学院に入りました。丁度、米国の石坂研究室での留学を終えた多田富雄助手が帰国され、私は先生の直下で研究の理解きを受けることになりました。

T細胞にはB細胞の分化を助けるヘルパーという働きが発表された頃です。

多田先生の下で私はラットのT<sub>H</sub>抗体産生の実験系を確立し、偶然にT細胞にはヘルパーとは逆にプレートをかけるサプレッサーの働きがあることを発表し(J. I. 1971, Nature 1973)一躍脚光を浴びました。その後、果たしてサプレッサーとヘルパーは同一か否か、という疑問に決着をつける目的で、

運よく採用していただいたスタンフォード大学のHerzberg教授の下で二つは別の細胞群であることを発表(J. E. M. 1976)して帰国しました。次の疑問は古くから知られている標的を殺傷するキラーT細胞との異同です。順天堂大学に赴任してすぐにキラー特有の殺傷分子パーフォリンを同定することができ(Nature 1988)、その後、いくつかの殺傷分子群の働きを止めれば、免疫反応が制御出来ると研究を進めました。がうまくゆかず、発想を変え、免疫反応の惹起誘導時に重要な分子に焦点をあて、抗原が入ってからすぐのT細胞初期反応時に最も強いシグナルを入れる分子CD86の同定(Nature 1993)に成功しました。最終的にその分子からのシグナルを制御する手段で、免疫制御法の確立を試みております。

拒絶反応に焦点を当て、CD86の使用が有効であることをマウス・サルで確かめることが出来(J. C. I. 2005)、最終的に北大の外科の藤堂先生を中心とした先生方と共同で人の肝移植において、これらの抗体利用の効果を確かめることに成功し(Hepatology 2016)、世界的な評価を受けています。

引き続き、この臨床応用は厚労省の「さがけ」制度にも認定され全国に展開すべく只今PANDAに申請中です。又、各国からの問い合わせも多く只今米国での治験もD. C. Davis校とStanford大学の肝移植グループの先生方と準備中です。多くの後輩たちが国の大きな支援を受け、次のステップの免疫制御法確立のため日夜、頑張っております。



るのほな同窓会賞

社会貢献賞

るのほな同窓会社会貢献賞を受賞して

医療法人社団悠翔会ケアタウン小平クリニック  
名誉院長 山崎章郎 (昭50)



本年6月8日、るのほな同窓会にて「るのほな同窓会賞社会貢献賞」を受賞した。当日は、久しぶりの同級生にも会えて、晴れがましくもあったが、懐かしい若手医師時代も思い出していた。

今回の私の受賞は、緩和ケア医としての取り組みが評価されたことと、有難くお受けしたが、今思えば受賞のきっかけは、1983年の冬(南半球の夏)、36歳になったばかりの南極海の船上だった。

南極海底地質調査船の船医として南極に赴いた私は、航海中に読もうと何冊もの本を持ち込んだが、そのうちの二冊にアメリカ

の精神科医、エリザベス・キュブラー・ロスの著書である「死ぬ瞬間」(川口正吉訳、読売新聞社)があった。その本の序章にロスの子供ころのエピソードが書き述べられていた。そこには木から落ちて、瀕死の重症を負った近所の男性が、家で最期を迎えようとしている場面が描かれていた。家族や友人に囲まれて、葡萄酒や家庭の味のするスープを口に、最期のお別れをする場面だった。

苦い過去になった。そして下船したら蘇生術の意義を見直し、あるべき終末期医療に取り組みもうと決心したのだった。

1984年春より、千葉県八日市場市(現・匝瑳市)市民病院で消化器外科医としてメスを振るいながら、院内はもろろん地域の医療関係者全体を巻き込んだターミナルケア研究会を立ち上げた。そして、最終的には「ホスピス」こそが当時の終末期医療を変える取り組みであると確信するようになった。1991年10月より、東京都小金井市にある聖ヨハネ会桜町病院でホスピス医として働くようになったが、少なからぬ患者から「ホスピスには感謝している。でも、本音を言えば家にいたかった」との言葉を聞いた。

自分が最善と確信したはずの人生最後の療養場所としての「ホスピス」の限界に直面した私は、想いを同じくする同志たちと2005年より「在宅ホスピスケア(在宅緩和ケア)」に取り組みむべく「ケアタウン小平チーム」を立ち上げ、現在に至っている。

今回の受賞を励みに、今後も在宅緩和ケアの充実のために尽力していきたいと考えているが、同時に、2019年5月、ステータジ4の大腸がんになって以降の私のもう一つのライフワークである「がん難民」支援のための「がん共存療法」の確立にも力を注ぎたいと考えている。ありがとうございました。



### 千葉大学創立75周年記念式典、 祝賀会に参加して

あのはな同窓会長 吉原俊雄(昭53)

令和6年11月2日(土)に西千葉キャンパスにて創立75周年記念式典が開催されました。校友会総会の後に、第一部は改修した陸上競技場イベントで、あいにくの小雨であり、体育館にてオーリンピアノの為末大氏をゲストに迎えてセレモニーが行われました。その後、けやき会館にて管弦楽団演奏、合唱部の校歌合唱、中谷理事による開会挨拶、横手学長の挨拶、来賓の祝辞が述べられました。来賓として森友文科省審議官、熊谷千葉県知事、神谷千葉市長からの祝辞をいただき、そして出席された国会議員の先生方の紹介が行われました。記念講演としてお二人の日本学士院賞受賞者である大栗真宗先進科学センター教授より「宇宙を満たす謎の物質ダークマター」、そして清野宏ヒト粘

膜ワクチン学部門・卓越教授「飲むワクチン・吸うワクチンで病気を予防する」が披露されましたが、今年是全国で10人の学士院賞受賞の内2名が千葉大学というところは輝かしい成績でした。記念祝賀会は京成ホテルミラマールで開催され、横手学長挨拶に始まり、徳久元学長、森英介衆議院議員、猪口邦子参議院議員をはじめ多くの方がたからの祝辞をいただきました。千葉大学の全学部の方達が多数集った盛大な会となり、今後の千葉大学の発展を予感させるすばらしいイベントでした。



下段：千葉大学ウェブサイトより

## 就任挨拶

### 千葉大学大学院医学研究院 呼吸器病態外科学 教授

鈴木秀海(平13)



令和6年(2024年)6月1日付で千葉大学大学院医学研究院呼吸器病態外科学の教授を拝命しました。

あのはな同窓会の皆様をはじめ多くの方々にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

呼吸器外科の領域では、歴史と実績ある教室の運営を引き継がせて頂ける事に、身の引き締まる思いです。

私は成田高等学校出身で、平成13年に千葉大学医学部を卒業し、当時の胸部外科学教室(藤澤武彦教授)に入局しました。2011年から呼吸器病態外科学教室となり、吉野一郎教授のご指導のもと、呼吸器外科全般の臨床に加え、研究、教育にも注力してまいりました。

大学院では、肺癌患者に対する臨床試験で学位を取得しました。その後、基礎研究をしっかりとやりたい希望もあり、それまで7人の先輩が留学された米国インディアナ大学に留学し、肺移植の基礎研究を行いました。また手技的に困難だったマウスでの肺移植後の慢性拒絶反応モデル確立に成功し、帰国後も免疫細胞医学教室の本橋新一郎教授を始め、多くのご支援を頂きながら基礎研究を継続してきました。臨床においては、2014年に千葉県初の肺移植を、主治医として担当しました。言葉では言い表せない多くの経験をさせて頂き、患者と家族に対して感謝の気持ちを常に持って過ごしてきました。今後さらに需要が増す肺移植の発展に、関係各所と連携しながら、貢献していきたいと考えています。

当教室の手術数は、2007年の吉野教授の就任時

に初めて200例を越えたところから、現在は400例程度まで倍増しており、その半数は原発性肺癌に対する手術です。1959年に当時第一外科教室の香月秀雄先生が肺切除の第一例目を執刀し、今もその記録が医局に保存されています。現在はロボット支援下手術を積極的に増やし、低侵襲手術に力を入れる一方で、地域の最後の砦として求められる拡大手術や教育の観点から、開胸手術も大切にしながら日々の診療を行っています。

非常に魅力的でやりがいのある外科の仕事に対して、更なる発展に希望を膨らませる一方で、若手外科医の減少という問題を懸念しています。働き方改革によりさらに厳しい状況になるという意見もありますが、むしろ外科選択を回避させる因子である激務を改善し、追い風になると期待しています。従来のオンザジョブトレーニングを軸としたトップダウンの教育は通用せず、むしろシニアが若手から教えてもらう姿勢が大切だと考えています。現場のスタッフがより主体的に、やりがいをもって働ける環境を整備し、エンゲージメントを高める必要があります。

ます。＜R(仮想現実)やVR(複合現実)等の企業と連携した最先端の技術や千葉大学の強みであるクリニカルアナトミラボを活用した画期的な教育に注力し、新たな外科の魅力でインクルージョンを広めていきたいと考えています。

ここまで千葉大学で育てて頂いた恩を少しでも還元すべく、本学、病院及び呼吸器外科の発展に尽力していく所存です。

引き続きのご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 人事異動

講師

- 法医学研究センター 星岡 佑美(平24)
- 食道・胃腸外科 栃木 透(平18)



# るのはな同窓会地区会長挨拶

## 千葉県るのはな会 会長就任挨拶

千葉県るのはな会

会長 黒木春郎(昭59)



平素よりお世話になりました。

2024年6月、千葉県るのはな会同窓会会長を拝命いたしました黒木春郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は千葉大学医学部を昭和59年に卒業、小児科医局に入局し、関連病院・大学教官を経て2005年に千葉県いすみ市に外房こどもクリニックを開設しました。2008年に医療法人社団副業の会理事長となり、2023年4月に東京都港区に、こどもとおとなのクリニック パウルームを開設いたしました。

千葉県るのはな会同窓会には秋葉哲生先生(あきはば 伝統医学クリニック)にお誘いいただき参加し始めま

れから尽力出来ればと思います。今回会長を担当するにあたり、千葉県るのはな会の伝統を守り、同窓会という貴重な場を忌憚のない情報

## 神奈川県るのはな会 会長就任挨拶

神奈川県るのはな会

会長 平澤晃(昭60)



この度、前任の西川哲男先生(昭和47年卒、横浜労災病院名誉院長・現西川クリニック院長)から会長を引き継ぎました。私は、大学卒業後に第二内科に入局し、平成4年4月に医局人事で新横浜にある横浜労災病院に勤務し、以来人生の半分以上を神奈川県民として過ごしています。

神奈川県には多くの関連病院があったこともあり、千葉大学に縁がある先生が大勢おられます。また、県内の大学医学部で教職についておられる先生も少なくないです。しかし、コロナ禍の影響もあり会員の交流が減少し、そして同窓会組

交換の場として生かすことが出来るよう、微力を尽くす所存です。皆様からのご指導をよろしくお願いいたします。

## 近畿るのはな会 会長就任の挨拶

近畿るのはな会

会長 島正之(昭59)



このたび、上田真喜子先生(大阪公立大学名誉教授、昭50年卒)の後任として、近畿るのはな会会長を拝命いたしました。私は昭和59年に千葉大学医学部を卒業後、市中病院での臨床研修を経て公衆衛生学教室に入り、故吉田亮教授、安達元明教授のもとで大気汚染の健康影響に関する研究に取り組んできました。平成16年に兵庫医科大学(兵庫県西宮市)に公衆衛生学主任教授として赴任し、近畿るのはな会に参加させていただきました。

それから既に20年が経過し、本年3月に医学部主任教授を定年退職しましたが、4月から同じ大学の看護学部特命教授として大学院博士後期課程の設置を担当しております。

近畿るのはな会は、近畿2府4県の千葉大学医学部

出身者で構成されており、会員数は70名程度です。以前は数年に1回程度集まっていたようですが、2015年からは毎年5月に大阪で同窓会を開催しています。毎回の参加者数は20名程度とそれほど多くはありませんが、最近では近畿圏の大学教授に就任された同窓生をはじめ、若い先生方の参加も少しずつ増えており、世代を超えた貴重な交流の場となっております。

こうした同窓会の運営は上田真喜子会長とともに長年にわたって世話人を務めてくださった中尾照逸先生(昭50年卒)のご尽力によるものですが、中尾先生もこのたび世話人を退任され、今後は私と同期の朝長毅先生が主世話人、伊豆敦子先生が副世話人を担当して頂けることになりました。お二人の協力を得て、会の発展のために尽くしたいと考えていますので、よろしく

お願いいたします。

令和6年度  
るのはな同窓会  
新理事紹介

東京るのはな会 理事  
武藤剛(平19)





受章の挨拶

瑞宝小綬章

瑞宝小綬章を受賞して

千葉県精神科医療センター名誉院長、  
静岡県立こころの医療センター名誉院長

平田豊明(昭52)



この度、瑞宝小綬章を拝  
受する栄に浴しました。私  
は卒後40年の間に3つの公  
立病院に勤務して精神科臨  
床に携わりましたが、多職  
種チームによる共同作業な  
くして私の仕事は語れませ  
ん。したがって、今回の勲  
章は、私個人にはなく、  
私を支えてくれた先輩・同  
僚諸氏と私の家族、そして  
困難な人生を生きる患者さ  
んやそのご家族にも授与さ  
れるべきものです。懽越な  
がら、そうした人々を代表  
して私が勲章を拝受したと  
認識しています。

私が卒業した47年前、精  
神科病院の多くは、情報の  
出入りがほとんどない閉鎖  
空間であり、医療施設とい  
うよりも社会的な隔離施設

ます。診療所の増加は精神  
科受診の敷居を下げ、通院  
患者の生活の質の改善に寄  
与していますが、精神科病  
院と同様、医療の質には少  
なからぬばらつきがありま  
す。

人口の少子高齢化、核家  
族化、インターネットの普  
及など、加速する社会変容  
にもなつて、精神科医療  
へのニーズも多様化してい  
ます。精神科医療機関には、  
幼児から超高齢者に至るま  
で、幅広い年代と多様な社  
会背景をもつ患者が日夜来  
院しており、医療者側には、  
個人病理にとどまらず、家  
族病理や社会病理を見据え  
た対応が求められています。  
高齢者や自殺未遂者など、

瑞宝双光章  
叙勲を授与されて

時田信博(昭43)



私が卒業した昭和43年は  
学園紛争の最盛期でした。  
この年に従来のインターン  
制度が廃止されました。こ  
れに対して反対運動が起こ

精神・身体双方の治療を要  
する救急患者も増えていま  
すが、そうした事例への対  
応場面では、精神科と身体  
科の間の歴史的・制度的な  
溝がしばしば浮き彫りにな  
ります。千葉県精神科医療  
センターは、昨年11月、千  
葉県救急医療センターと合  
体し、千葉県総合救急災害  
医療センターとしてリニュー  
アルされました。心身統合  
的な急性期医療の進展に期  
待したいところです。

私も、なおしばらくは、  
周囲に迷惑をかけないよう  
に留意しつつ、精神科臨床  
や後進の育成、各種の公務  
に微力を捧げる所存でおり  
ます。

機会もなく母校への貢献  
も殆どありません。今回、  
それにもかかわらず御寄稿  
への機会を与えて頂いたこ  
とに深く感謝しております。

紛争の最中にいろいろ考  
えているうちにふと浮かん  
だことがあります。私の  
出身である高校の三理想で  
す。これは中学、高校を通  
じて6年間洗脳されたもの  
です。そのうちの二つは「世  
界に雄飛するにたえる人物」  
もう一つは「自ら調べ自ら  
考える力ある人物」です。  
そう、この際アメリカに  
行こうと決心しました。そ  
のため以後6か月間は資格  
試験と英語力をつけるため  
に全力を投じました。私の  
学生時代は部活や他の活動  
に力を入れていましたので  
試験の準備は大変苦労し  
たのを覚えております。昭  
和44年の7月には米国での  
インターン生活が始まり、  
以後、外科の resident、耳鼻  
咽喉科 resident、fellow とな  
り米国で論文も含めると10  
年かかると一人前とな  
りました。病院のスタッフ  
になってから興味深い問題  
に遭遇しました。アメリカ  
の原住民の患者を診たので  
すが、ほとんどが耳の疾患  
を患っていました。好奇心  
が増すなか、アラスカ原住  
民の耳鼻科診療を求める募

集があり、これに参加して  
アラスカ州のフェアバンクス  
に赴任しました。ここでは  
一般の人の診療にも従事し  
ましたが私の興味は原住民  
の医療にありました。彼ら  
はエスキモーと内陸に住む  
アメリカインディアンの人々  
であり、私と同じようなア  
ジア系の容姿、体格をして  
おり親しみを持って接して  
くれました。診療して気付  
いたことはやはり高頻度の  
耳の疾患、中耳炎がありま  
した。6年間の勤務で疫学  
的なデータも収集しました。  
私にとってはとても充実し  
た時期だったと思っていま  
す。しかし、予算削減のた  
め医療サービスは閉鎖され  
ることになり、私は日本に  
帰国しました。当時、私の  
父は元気で耳鼻咽喉科診療  
を行っており、患者さんの  
数に驚きました。また、ア  
メリカで行う耳鼻科診療と  
日本のそれが余りにも相違

があり、結局、私は自分で  
町の郊外に出て開業しまし  
た。父から受け付けた学校  
医のポストが10校、そして  
医師会から更に4校追加さ  
れ計14校になりました。こ  
の数は大変でしたが、公共  
奉仕として微力ながら市民  
にできることとし、更に私  
が興味を持っていた課題で  
アラスカ原住民の耳の疾患  
が類似したOZPを持つ日  
本人で同じ疾患の頻度を調  
べる良い機会でもあると考  
えており前向きに考えまし  
た。校医として学校を訪れ  
ると日本の生徒は礼儀正し  
く協力的であり、先生方も  
いつも親切丁寧なふるま  
いでくれます。帰国してから  
40年、あつという間に年月  
が過ぎてしまいました。今  
でも現役で仕事しておりま  
す。今回の賞は永年勤続の  
表彰で頂いたものと思っ  
ています。

叙勲、褒章その他祝事に関係された方  
は是非同窓会事務室までご一報下さい。  
編集部でも絶えず注意しておりますが、  
ニュースに接し得ない事態もあります。  
お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にも  
お分けしたいと思っておりますのでよろしくお  
願い申しあげます。

瑞宝双光章

叙勲の栄に浴して

幕張ももの木クリニックス

武藤 彦 (東邦大・昭47)



2024年、春の叙勲にて瑞宝双光章を賜りました。誠に荣誉なことに感謝しております。5月10日、国家

公安委員会から勲章が授与され、その後、皇居に参上し、春秋の間において天皇陛下の御拝謁を受けてまいりました。厳かで久しぶりに緊張したひと時でした。

私は昭和47年に東邦大学医学部を卒業し千葉大学第二外科に入局しました。その後は栃木県塩谷病院、県立佐原病院、そして川鉄病院(現在、千葉メディカルセンター)などで勤務した後、1983年(昭和58年)育った幕張の地で開業し現在に至っています。

今回、ありがたい事に叙勲を拝受したのですが、そもそもこの受勲は自分にとって、寝耳に水の出来事でした。この世に生を受

けて78年間、無論、悪事はしておりませんが、だからと言ってそんな立派な事をした覚えもありません。医師となつて50年、その後開業してから40年経ちましたが、これと言って可もなく不可もなく歩んで来たつもりでした。その気配を感じたのは2023年の秋でした。警察医として30年間勤めてきたことに対して警察庁長官から賞状なるものを授与されたのです。その際、同席した千葉西警察署長から、「先生、これは叙勲される予兆ですよ!」、とつぶやかれました。彼曰く警察医を30年間勤め、3000体以上の検案してきたことがその評価の対象だということです。突然そんな事をつぶやかれても、自分としては漠然とした理解しかできず聞き流してしまいました。ところが今年の春、警視庁から瑞宝双光章の叙勲が現実に内示されたのです。

年より危険業務従事者叙勲として制定されたそうです。主旨は国家、または公共に對し長年にわたり従事して成績を挙げた者。即ち、自己を犠牲にして社会に貢献した警察官、自衛官、消防官、海上保安官などの著しく危険性の高い業務に精励した者が叙勲されると言うものです。実は私は30数年前に警察の委託医を仰せつかりました。開業して10年頃、医師会の先輩から「武藤君、欠員が出たので千葉西署の委託医をやってくれないか?」と頼まれたのです。当時は先輩から頼まれたら事情がない限り断らないのが通例でしたから仕事内容も良く理解せず引き受けたのです。着任した当初は驚くことばかりでした。強制採尿をお願いします!、と刑事に言われ警察署に行くも暴れる覚せい剤容疑者を刑事4人が羽交締めにして「この令状は下りてますから先生!、強制採尿お願いします!」、と叫んでいるのです。言われるままに尿道カテーテルを挿入して採尿したのですが、容疑者は最後まで自分に罵声を浴びせられていました。無事終

んな相手の嫌がることを今後もずっとやり続けていくのだろうか?、とショックでした。また検案についても、そもそも自分が医師を目指したのは病む人を治す事が志だったのですが、警察医のすることはすでに死亡した方を検案するだけが仕事だったのです。しかも当初、検案は亡くなった方の家で行うのが基本でしたから死者方へバトカーで訪ねるのですが、到着した時にはすでに現場は弔いの場と化しており、隣り部屋からは遺族の泣き叫ぶ声が聞こえた。りして悲壮感漂う中での検案でした。しかし、時が流れ、自分もベテランになってきたのか極度の緊張感はなく楽になりました。強制採尿については被疑者もご時世で根性なしが多くなったのかカテーテルをチラつかせ「これを突っ込むとチョット痛いよ!」、とプレッシャーをかければほとんどの者が自尿を出すようになり強制採尿に至るも者が少なくなりました。また検案についても遺体はすべて警察署の霊安室に運んでから行うという方針が変わったので検案時に遺族との接触がなくなり気分的には遥かに楽にな

りました。気づけば30年間という時間が過ぎ、自分も78歳になってしまいました。以前は検案する人は自分より年上ばかりでしたが、最近では自分より若い人も多くなってきたことに気づきます。してみると、もはや「死」は他人事ではなく我が身の事でもあると日々痛感させられます。刑事から死者の死に至るまでの生活史、そして死因についての経緯を報告されるたびに己の身に押し替えて人生勉強をさせられる昨今であります。振り返って見れば自分はこれまで人に恵まれ、運に恵まれてきました。しかも頑張った証として勲章まで頂き実に幸せ者だと感じています。叙勲の歓びの興奮から覚め、改めて今思う事は、この叙勲とはもう残り少ない人生だが、もうひと頑張りしなさい!、というありがたいエールなのかもしれない。



ぬのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

- 第30回 (2025年度) んのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。
1. 受賞対象者
    - ①社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。
    - ②功 勞 賞 医療および広く文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学ぬのはな同窓会に多大の貢献をした会員。
  2. 表 彰
    - ①社会貢献賞 (2件以内) 盾および賞金 (総額20万円以内) を贈呈します。
    - ②功 勞 賞 (2件以内) 盾および賞金 (総額20万円以内) を贈呈します。
  3. 応募方法
 

所定の申請用紙により、2024年12月1日から2025年1月31日までに申請して下さい。
  4. 受賞者の決定
 

常任理事会の議を経て、会長が行います。  
審査結果は2025年5月中頃までに各申請者に通知すると共に、ぬのはな同窓会報に掲載します。
  5. 問い合わせおよび申請用紙請求先
 

千葉大学医学部内、ぬのはな同窓会事務室  
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

# 各地ののはな会 だより

## 千葉県のはな会

### 令和6年度総会の報告

令和6年度千葉県医学部同窓会の千葉県支部である千葉県のはな会総会は、令和6年5月11日土曜日に、千葉大学医学部同窓会館で開催された。

まず午後4時15分から開催された総会で、令和5年度事業報告・会計報告・令和6年度事業案・予算案が報告され承認された。役員交代として、中村真人(昭54卒)現会長兼会計が退任し顧問になり、後任に黒木春郎(昭59卒)副会長が会長兼会計に就任した。

講演会は二部構成で、第一部は吉村健佑理事(平19卒)の司会で、「大学と地域の病院で「ともに」医師を育てる」千葉県地域枠制度の現在と未来」と題した講演であった。最初に、斉藤景子先生(平18卒)から、千葉県の地域枠制度15年の成果と未来についての発表があった。次に、鋪野紀好先生(平20卒)から、地域医療教育講座の取り組みについての発表があった。最後に、地域枠制度を

利用するという題で、実際に地域枠を利用してどのような制度であるかについての発表が、橋本俊亮君(医学部5年)と上野真幸君(医学部2年)からあった。これらの発表から、吉村健佑理事が、学内多くの先生方の協力を得て、千葉県内で働く若手医師を増やすための非常に良い制度を発展させていることがわかった。

第二部は、一般社団法人未来研究所副理事長の香取照幸様を迎えて、「かかりつけ医制度から、医師と医療の将来像へ」という題で講演して頂いた。

日本の医療の成り立ち、問題点、イギリスの医療との違い、今後の医療の問題点、特に2024年問題などの話であった。高齢化でも85歳までは介護が必要になることはあまりないが、85歳以上になると半数以上の方に介護が必要になり、さらに疾病が加わることで生活そのものへの対応も含めた医療が必要になるとのことであった。我々は、将来のビジョンを持ち、今後の国民が望む医療を、経済的な問題も考えながら、多くの医療関係者が立場の違いを超えて検討して行かなければならないと思った。

講演会の終了後、懇親会は医学部敷地内のレストランMOKUで開催した。MOKUの料理とお酒は最高に旨く、家内安全のためにも今回は家内も連れてく

るべきと思った。最後に、やはり対面での集まりは、昨年同様本当に良い物だと改めて感じさせられた。  
(中村真人)



千葉大学のはな同窓会 会員の皆様へ

## 「会員総合補償制度」のご案内

保険期間：2024年3月1日午後4時～2025年3月1日午後4時(中途加入随時受付)



支払限度額が拡大！医療業務中の万一に備えて

### 医師賠償責任保険(勤務医向け)

医療の遂行に起因して、万一患者の身体に障害を与えてしまった場合(死亡を含む)にその法律上の損害賠償責任のご負担を補償します。出張診療中も監督責任を問われた場合も対象。

対人1事故につき支払限度額 **3** 億円(保険期間中9億円) **Z3** タイプ登帳



《お問合せ先・取扱代理店》

**PIONEER** 株式会社パイオニア

Tel 0120-36-8442 Fax 0120-36-1061  
https://www.pioneerltd.com/



産業医等活動保険(任意付帯オプション)も取扱中。

この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。また、ご加入にあたっては、必ず重要事項説明をよくお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししてあります保険約款および特約によりますが、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。

【引受保険会社】 東京海上日動火災保険株式会社 (担当部) 医療・福祉法人部 Tel: 03-3515-4143 (平日 9:00~17:00)

2024年6月 24TC-001195

### 神奈川のほな会

#### 令和6年度 総会および懇親会報告

令和6年度(2024年)神奈川のほな会の総会および懇親会が、7月6日(土)午後6時より、横浜駅西口近くのホテル・キヤメロットの桃花苑で開催されました。

総会は理事高山篤也先生(昭56)の司会です。会長の西川哲男先生(昭47)のご挨拶を得て、物故者3名の方に黙祷を捧げ、会計報告と予算案が承認されました。会費納入をもう少し多く、が例年の課題です。議事に入り、役員改選案が会長より提出され、横浜労災病院副院長、血液内科部長の平澤晃先生(昭60)が新会長に推薦され、満場一致で承認されました。病院の仕事だけでもお忙しいところ、やむを得ず、会長職を引き受けてくださいました。他の役員は平澤新会長に1任されることになりました。大学関係からは北里大学医学部主任教授(免疫学)の末永忠広先生(平11)がご参加下さいました。また、亥鼻祭の実行委員長と副委員長のお二人の学生さんに、西川先生より恒例の奨励金

が贈呈されました。今年度、学術講演会は割愛され、少数精鋭の会(笑)との参加者の印象です。

続いて懇親会となりました。司会は野澤聡志先生(平2)です。出席者の中では最年長の三科(昭46)が乾杯の発声をいたしました。秘書としてご援助くださった横浜労災病院の末松佐知子さん、お二人の学生さんも参加くださいました。会場の中華料理をテーブル席で満喫しながら、出席者がそれぞれ近況報告など、和気藹々、楽しいひと時を過



ごすことが出来ました。閉会のご挨拶は土佐純一先生(昭49)です。会長としてご尽力いただいた西川先生への御礼が述べられ、また、全員に元氣な再会を祈念され、会が終了しました。

写真右から  
前列：平澤晃(昭60)、西川哲男(昭47)、末永忠広(平11)、三科孝夫(昭46)、安野憲一(昭48)  
後列：末松佐知子(秘書)、北野慎一郎(昭60)、乗貞佑(医2年)、野澤聡志(平2)、浅川雅透(平7)、

渡辺義郎(昭56)、飯沼克博(昭55)、増田公男(平3)、土佐純一(昭49)、高山篤也(昭56)、阪みなみ(医3)

### 静岡のほな会

さる8月3日、静岡のほな会総会が静岡市のホテルグランヒルズで開催された。いつにない猛暑の中、参加してくれた会員は16名で、人数は例年並みであったが、高齢の会員の欠席が増えた一方で、新規に参加してくれた方も増えており、ある種の新鮮さを感じられた。静岡県では新規会員はほとんど増えず、会員数は減るばかりであるが、何らかのきっかけで総会にも参加してもらえるとありがたいものである。

今年度は役員改選があり、会長には引き続き宮本恒彦(昭54)が就くこと、新たに今年JCHO三島病院の院長になった赤倉功一郎先生(昭59)が新理事となることなど人事案が承認された。年会費の納入状況や会員の異動、支部会報である「のほな静岡」の発行状況などの庶務報告、および会計報告もあり、それぞれ承認された。

今年の学術講演にはのほな同窓会の副会長でもある栗原正利先生(昭54)をお招きし、専門領域の嚢胞性肺疾患に関する講演と、のほな会での活動に関する話もしていただいた。気胸の治療には様々な方法があるもののスタンダードと言える方針がないとのこと

で、栗原先生の病院で実施されているいくつかの外科的な手技が紹介されたが、専門外であって非常に分かりやすいものであった。後半ののほな会の活動に関しては、日本館のDVD制作のことや、目下進行中の初代校長尾精一先生の胸像復元の取り組みなどを中心にして、「燃えている」活動を紹介された。関連して昔の写真なども披露されたので、会員は興味深く聴きついていた。

懇親会ではそれぞれ自己紹介をしながら交流を深める場になった。静岡県は東西に長いこともあって日常的な交流がしにくい事情があるが、やはりこうして年に1度でも顔を合わせて、世代を超えて同窓としての新たなつながりができることの意味を再確認出来たように思う。このような縁を大切に仕事や日常生活を充実させたいものである。

### 写真右から

(宮本恒彦)  
前列：天神弘尊(昭45)、菅ヶ谷純弘(昭45)、土川秀紀(昭44)、宮本恒彦(昭54)、栗原正利(昭54)、山本俊樹(昭51)、高橋敏信(昭52)  
後列：名古屋良輔(昭54)、



中山貴裕(平3)、尾崎正時(昭58)、鉄治(平1)、嶋田務(昭54)、笠松紀雄(昭56)、難波宏樹(昭54)、高森尉之(平6)、赤倉功一郎(昭59)、黄舜範(平6)  
(敬称略)

# ク ラ ス 会

## るのはな37クラス会 (昭37)

令和6年の37会は9月26日に開催しました。今回は卒業62年経た現在、大学法人化した千葉大医学部がどんなに新しく変わったか見学しようと企画しました。午前11時に旧野球場に建てられた医学系総合研究棟に石山君以下9名で集合し、総務課の長塚さんに案内して頂きました。3階に医学部の歴史・沿革の資料が展示されており、そこを見学。同じフロアに広大なスペースがあり、学生が飲食や自習をし、巨大スクリーンがあつて講演会など出来るのとのこと。空調もあり、65年前とは雲泥の差でした。それから新病院の外來を見学しました。郵便局やコンビニのロソンが入っていたり、テレビ・映画のロケ撮影が行われてたりするそうです。やはり句会同人である小野君が凡秋谷や加賀谷凡秋先生の碑を探しに行こうとしたのですが、駐車場になつていたりしてわからなかつたようです。

12時から京成ホテルミラマールで食事を開きまし

た。参加者は13名でした。開会前に集合写真を撮り、去年10月29日以降亡くなられた森豊君、中村嘉孝君、渡辺實君のご冥福を祈つて黙祷を捧げました。次いで安達名誉教授の発声で乾杯し、会が始まりました。

しばらくの歓談ののち、各自近況報告や思い出話に移りました。事前にクラス全員の近況報告集を欠席者にも配布しておりましたが、対面での会話は楽しいものでした。安達さんは最近「学んで教えて60年」と題するアニアルエッセイを発刊し級友に感動を与えました。石山君は定職から離れたが、雑用があり穏やかな老後ではない。伊東君は膝ガン術後、12月25日で満十年になるが、体調良好でクリア出来そう。入枝君は昔の事を話すことが多くなり、疎開先の鹿児島で米軍のグラマンF・6・Fに機銃掃射を受け、数人の友人と逃げたが自分だけ助かった。岩倉は毎朝のラジオ体操で体調良好。8月に肺炎に罹患2週間入院し治療。来年3月に3番目のひ孫が生まれる予定。大野君は白内障になつて大好きな読書ができな。近く手術を受ける予定。その手術に関して安達さんが懇切丁寧に説明

アドバイスしてくれました。流石です。小野君は囲碁・麻雀・ゴルフたまに俳句。1月から3月にかけて、膀胱腫瘍と前立腺肥大の手術。7月に白内障の手術。かなり多忙な生活。伯野君は元気で診察継続中。息子さんが東京成城に循環器内科を開業予定。布施君はOCCTで透析寸前。クレアチニン値3.1、eGFR15で著変なく、月2回ラージボール教室、週2回筋トレ教室、1日5,000歩のウォーキングが目標。山本君は民間病院で働いているがやめるタイミングを見計らっているところ。油井さんはご主人の信春君の近況。老化が進んでいる。本人は2月末で閉院し無職。歌は唄っている。吉川君は一番元気で一番遠い静岡から。東京へ来るのに1時間、東京から千葉大へは1時間以上。クリニックの建て替え工事中。お嬢さんは防衛医大を卒業し勤務中。

欠席者の近況報告では、小崎伊佐夫君は中学時代の友と俳句や短歌について話合っている。田島誠君は週3日半仕事、長く歩くと夜足がつつて眠れなくなる。土井修君は3月に路上で転倒。頭皮縫合、骨折なし、頭蓋出血なし、歩行に杖が必要。日浦利明君は9月30日で退職し、左肺癌術後再発と歩行障害の治療に専念する。福士和夫君は自主歩行が困難なため欠席。綿引義博君は日時調整できず欠席。マニユアルカーで通勤、小型船舶免許更新し、墨田川・東京湾・山中湖でボートを楽しんでいる。夢は海路を駆け巡り。井坂誠二君

は急に衰えてやつと歩いてくるが、セーヌ川クルーズに行つてきた。成田空港で美人の車いすサービスを受けた。

その他、欠席の理由では大腿骨折2名、脳梗塞1名、体調不良2名、脊柱管狭窄1名です。年齢86歳以上になるとやむを得ません。楽しかったクラス会も時間



を30分オーバーして、油井真知子さんの歌唱指導で皆が歌える「故郷」を合唱して来年10月頃の再会を約して散会となりました。

写真右から  
前列…岩倉弘毅、伊東治  
武、安達恵美子、油井真知子、瀬川襄、石山淳一、後列…布施吉弘、吉川正宏、入枝幸三郎、山本駿一、伯野中彦、大野孝則、小野幸雄

--- クラス会の開催をご寄稿ください! ---  
 クラス会開催のご報告を是非ご寄稿ください。  
 お写真と共に本会報に掲載いたします。  
 なお、本会報の発行月は1月と6月です。  
 ※次号(6月)の原稿締切は3月末日です。

### 昭和38年卒クラス会

今年度の昭和38年卒クラス会は2024年10月19日(土)、恒例の「東京 芝とうふ屋うかい」で快晴に恵まれ開催されました。

参加者は同級生15名、ご夫婦での参加は3組、すでにお亡くなりになった友のお連れ合いはお二人で、参加者は総勢20名でした。参



加者は東京、千葉、埼玉、神奈川からと、遠く和歌山からの参加がありました。

加藤友衛幹事の司会により、最初にここ1年間に物故された同級生の冥福を祈って黙禱を捧げ会が始まりました。

食事を楽しんだ後、それぞれの近況が順番に報告されてお互いの生活や活動状況をj知る機会となりました。80歳の後半となっても多く

の方は診療を続けており、社会に貢献していることを知ることが出来てうれしく思います。人生100歳時代と言われるようになりましたので今後もそれぞれの活躍は継続するでしょう。あつという間の2時間でした。

閉会后、記念の集合写真を撮影し、来年の再会を約束して解散となりました。

撮影後、時間のある方は邸内の喫茶室で歓談の機会を持ちました。

#### 写真右から

前列…香西襄、大津裕司、木下昌、鳥羽剛、木下(石田)敏子、園部和子、谷修一、鳥羽さち子、野本美知子、三木亮  
後列…加藤友衛、玉置哲也、長山忠雄、畔田浩、浅野尚、宮下久夫、盾二郎、玉置捷子、原和、加藤貴美子

(長山忠雄)

### 参旧会 (昭39)

#### 2023年参旧会開催報告

卒後59年目(昭和39年卒)のクラス会(参旧会)は、晴天に恵まれた2023年10月7日午後1時から24名(うち夫人が7名)の参加を得て、料理の美味い神楽坂兵庫横丁の老舗料亭幸本(ゆきもと)で行われました。

前年2022年の会は幕張ホテルニューオータニで開かれましたが、コロナ明けであったため山下武広君達の幹事諸氏は随分頭を悩ました末の開催決断で恐る恐る集まった感じがありました。そこで今回はぱつとやろうということ、幹事の河野守正君と私深尾立が色街の名残の漂う神楽坂の料亭を会場に決めました。とはいえ2014年に京都第二日赤病院でインターン

をされた塚田正男君、鈴木守君と深尾の三人が幹事で京都南禅寺菊水で開いたときは舞子や芸姑を呼んだためは大赤字となり懲りたので今回は残念ながら芸者無しということになりました。

冒頭に前年(2022年)逝去された富岡玖夫君、今年(2023年)逝去された計見一雄君、田井千津子さんおよび角張雄二君に黙

静に捧げ、崎山樹君総幹事の挨拶から始まりました。まず神楽坂の紹介を幸本の女将にしてもらいました。かつて400名を越す芸者衆が見番横丁や芸者小径などを艶やかに往来していたのが今は僅か15名になってしまった。しかし見所の多い街なので宴会後も十分楽しんでくださいとの菌切れ良い江戸弁での挨拶でした。

息災ならぬ多病息災のスピーチが多いようでした。なかには現役同様に仕事をしている驚くような方もいます。たとえば老健施設施設長として往復60kmを運転

して通っている(危ないからやめると皆から諫められていましたが)という鈴木守君、日赤献血車に乗って千葉県内を回っている崎山樹君がいます。また常勤はやめたが毎週ゴルフを欠かさない万本盛三君、クリニックを閉めてから乗馬を

楽しんでる遠藤毅君などなど元気者もいました。その後の自由歓談の時間では過去の参旧会の集合写真10数枚を回覧して若き日の姿や鬼籍に入られた多くの友の姿を懐かしみました。参旧会は当初3月9日に千葉市内で行っていました



が、次第に幹事在住か何らかの縁のある土地で開くようになってきました。その土地土地での想い出もあるので次回の60周年参旧会では過去57回(コロナで2回中止)の全ての写真を集めて供覧しようと言ふことになりました。記念すべき次回参旧会はその場で伊藤晴夫君と確井貞仁君が幹事に指名され、伊藤君から大変貌を遂げた亥鼻キャンパス見学がたがた千葉市内で開くので多数の方々の参加を期待すると挨拶がありました。楽しい時間は瞬く間に過ぎて午後3時半過ぎとなり集合写真を撮って来年の再会を約してお開きとなりました。すでに街中散策を済ませてきた遠藤毅夫妻のような方々もいましたが、女将紹介の石畳の小径や毘沙門天赤城神社などの名所や人気店の多い街中見物に三々五々散じて行きました。

(文責 深尾立) 写真右から  
前列・幸本女将、宍戸英雄、山本弘、伊藤晴夫、深尾立、阿部一憲、秋草克彦、確井貞仁  
中段・万本夫人、上原朗、山本夫人、遠藤夫人、遠藤毅、秋草夫人、深尾夫人、河野守正  
後段・万本盛三、山下武

広、三浦徹蔵夫人、崎山樹、村上信乃、鈴木守、林学、中村征一郎、塚田正男夫人  
(敬称略)

### よんまる会

#### 40同期会報告 (2023年・2024年)

来年は60周年記念 みんな集まりましょう！  
よんまる会は前回2015年10月15日東京ステーションホテルにて、卒後50周年記念として開催され、参加者は38名であった。それから8年のブランクがあり、2023年5月19日12時より新橋第一ホテル「アンシャンテ」に於いて開催されました。  
参加者は以下の13名でした。  
参加者は安藤由記男・飯野いづみ・大木健資・崎山比早子・妹尾素淵・角田興一・長尾龍郎・中村泰久・武者廣隆・山浦晶・渡辺攻・吉川廣和・野口眞利 欠席で連絡頂いた人、石神敏子(風邪気味) 明星志貴夫(仕事あり) 中村千春(先約有り) 野上巖(腰痛めて) 又、発熱等で当日の欠席者は伊藤ルミ・瀧澤弘隆でした。

皆さんのショートスピーチはさまざまですが、略記しますと。  
ウォーキングとスクワットを毎日している、バラ菜園と蝶の撮影、病気がちであるが毎日飲んで、甲状腺がん問題に取り組んでいる、ひとり住まいだが知的な好奇心に燃えている、後継者が出来て仕事は辞めた、80才で手術を止め、家族のクッキングをしている、バイオリンを弾いている、歌いながらのスクワットがお勧め！この会はひとりになっても続けるべきだ！フレイル体操と油絵・スキーをしている、ゴルフと仕事をしている、バイパスをしたが健診の仕事も続けている、階段転倒したが回復・仕事は辞めている等、何らかの医療を行っている人は4割程度。

久しぶりの顔合わせで、二次会はホテルのロビーで団欒する。生存者は83名中46名(55%)、物故36名(不明1名)。  
昨年に引き続き毎年やうとの発声で、今年も5月17日、12時より同じく新橋第一ホテル仏料理「アンシャンテ」にて同期会が行われた。  
出席者は角田興一、中村雅一、中村泰久、辛京観ご



夫妻、山田勝巳、伊藤ルミ、幹事の吉川廣和が発熱で欠席、野口眞利の8名でした。昨年とは顔ぶれも変わり、又御夫妻での参加はこれからも歓迎です。  
会長役の角田興一のスピーチの後、伊藤ルミさんへ乾杯をお願いして会がはじまり、歓談盛会となった。来年は卒後60周年記念の同期会になります。ステーションホテルに於いて令和7年5月に開催される事になります。ご家族同伴にて

より多数の御参加を期待しています。  
これからも会員同志の情報の交換、よろしくお願ひ致します。  
(文責 野口眞利) 写真右から  
中村泰久、飯野いづみ、野口眞利、大木健資、吉川廣和、崎山比早子、山浦晶、安藤由記男、武者廣隆、渡辺攻、長尾龍郎、妹尾素淵、角田興一  
(敬称略)

千葉大学医学部 旧本館 85年の記憶

令和3年10月8日午後7時閉館 85年の歴史に幕が下ろされた

千葉大学医学部 旧本館 85年の記憶

お問い合わせ  
千葉大学ゐのほな同窓会事務局  
TEL : 043-202-3750  
E-mail : info@inohana.jp

DVD千葉大学医学部旧本館 85年の記憶  
千葉大学ゐのほな同窓会の旧本館メモリアル事業に対して3,000円以上のご寄附をされた方に返礼品として差し上げます。  
お問い合わせ  
千葉大学ゐのほな同窓会事務局  
TEL : 043-202-3750  
E-mail : info@inohana.jp

### 昭和43年卒、 卒後56周年クラス会

コロナ禍のため5年振りのクラス会が、いつもの東京ステーションホテル陽光の間で開かれました。この間に逝去された4君と計20名物故者の冥福を祈り、黙祷。

盛幹理事長の開会の挨拶、千葉君の事務報告の後、乾杯は今回も上海から出席された楊思勝君の発声で会はスタート。おいしい料理と各種酒類を交えながら、各人からの近況報告が順を追いながら続いた。現役でほぼ毎日診療してる、週に2から3回自分は一歩さがって子息と診療、すでに閉院された人、そろそろ昼もうかと思者さんの顔を思い浮かべながら悩んでいる人、引退して初めて専業主婦をしてる人、80の壁を越えたその個々の体調、想いはそれぞれです。テレビ出演で現役医師として元気に運動方法、栄養面を考えての料理について披露してる人の画面を見て感服しました。欠席者からのファックスの内容をみると、現役フルタイムの人は一人で、体力の低下、歩行困難、杖が必要で移動動作に不安があり遠出を控えてる人、家

に閉じこもる人、フレイル予防に3人でテニスしてる人、終活中の返事をくれた人、たまたまコロナ疾患で出席を断念した人、様々個人的な身体的に体調の変化、機能的変化が各人の生活を支配してるようです。出席者でも家人同伴の人会場まで付き添い、帰りに

迎えに来てもらう人、杖を使う人、移動能力の低下している人もいて、次回からは、同伴出席原則〇が必要と思われた。5年前の38名の出席者に対して今年5年経過して37名の出席者ということ、皆同級生に会うことを楽しみに待っていた事が分かります。



次回1年後この場所、陽光の間で再会を期してお開きとなりました。さすがに2次会をという人はいなくなり、気を付けて転倒しないように1年を過ごして元気に再開したいものです。  
(北原宏)

#### 写真右から

前列・唐澤祥人、梶尾高根、舟橋満寿子、神津玲子、盛克己、高岡邦子、和泉佳子、林雅恵、楊思勝、青木靖雄

二段目・北原宏、玉井夫人、玉井輝章、鳥居敏明、久野宗寛、鈴木秀、諏訪敏一、保坂忠成、星野聡、斉藤弘司

三段目・一瀬正治、千葉彌幸、藤塚光慶、東紘一郎、海野健、国保能彦、高山直秀、滝川弘志、蘭部友良、赤尾建夫

四段目・和田源司、松清央、佐野元昭、河村浩一、赤井壽紀、中嶋弘道、竜崇正



### ミニ郷土会 (昭54)

令和6年9月5日(土曜) 千葉駅そばの「レストラ」で「ミニ郷土会」を開催した。昭和48年入学ならびに54年卒業した者の会として「郷土会」と称している。その非公式会として千葉市周辺の在住・勤務の者が不定期に集い、ミニ郷土会を開催している。

最初に事務局を担当している田川君から庶務報告があり、全体の郷土会を2年毎に開催することも参加者



一同が賛成した(2025年5月に東京帝国ホテル予定)。その後同期皆の健康を祈って乾杯した。しばし談笑した後、参加者から近況が報告された。70歳前後が大半の中、各種の病で入院治療されたこと、閉院を考えていることなどが話された。余暇時間をいかに過ごしているかとして、テニスに興じたり、ゴルフシニアに戻るべく努力したり、自宅でのシンセサイザーに凝ったり、人様々であった。同期なら誰でも身近に関係する事柄に、「座長なき自由気ままな質疑応答」で

話が弾んだ。中には現職で病院やクリニック経営特に財政面や人事面での苦勞話(ハラスメントも含め)、政治家との懇親の歴史や親の介護で大変なことなどが披露された。中には国際学会のシンポジストとしてオーガナイズにいそしむ者もあり、研究心を絶やさぬ熱意には敬服した。ジンプエを旅した者から、「立ち寄ったヴェクトリア滝には「Cataract」なる地名が何故かある」と問われたが、眼科医も回答を得なかった。帰宅して語源を調べたところ、ギリシア語で「waterfall」の意があると知った。医学を志す仲間内の話から、新たに一つ医学用語語源関連のエピソードを知ることができた。

参加者同士何憚ることなく語り合えるのは同期故であり、楽しい時間は瞬く間に過ぎ閉店近くまで語り明かした。参加したのは、順不同で、1列目(右から)角南(田中)、宮崎(中島)、山崎(猪野)、2列目:田川、篠遠、白土、杉田、杉浦、3列目:斎藤(正)、石毛(俊)、広島、沼田、梶川、今関、小林(繁)の15名。  
(文責 杉田克生)



### 528会 昭52入学・昭58卒業

令和6年6月2日(日)に第6回528会が開催されました。コロナ禍があり実に7年ぶりです。

今回は同級生全員が65歳を過ぎ、一般社会ではリタイアの年齢となりましたので、仕事のみならずプライベートでの充実も目指す、というテーマでの開催でした。

第一部は、すでに音楽の分野で一家をなしている嶋勇吉君が建てた「風の奏楽堂」での演奏会。個人で所有しているバイオリン、リコーダー、ギターの演奏でした。ギターを除き成人してから習得したそうです。そのバイオリンの圧倒的な迫力に、皆魅了されました。

第二部は、恒例の宴会。今回は勝田台の貝殻亭での開催でした。オルガンスト嶋君の乾杯ではじまり、大いに飲み語りました。昨秋、理化学研究所副センター長の長野博司君が紫綬褒章を受章したとの発表があり、皆で拍手喝采。彼からは受章の経緯、授賞式当日の話など普段ではなかなか聞けない楽しい話がありました。またその他、持病

の話、旅行の話、自治会活動の話、すでに悠々自適な生活を送っている同級生の話、健康を保持する方法の話などで盛り上がりました。日々山歩きを楽しんでいる後藤茂正君からは528会山岳部を作ろう、との提案もありました。

久しぶりの開催、また日曜日の午後から夜にかけての日時の関係もあり、参加者は少なめでしたが、これからも元気に集まろう、と祈念し一本締めでの閉会となりました。

(文責 豊永直人)

写真右から  
前列…豊永直人、品田良之、大野博司、嶋勇吉  
2列目…後藤茂正、本田明、森田昌男、中川宏治、大谷地直樹、藤里正視  
3列目…長岡義宣、山崎俊司、日野剛  
4列目…桑原洋一、野本実、中島弘道、中郡聡夫、西村元伸、豊崎哲也、畦元亮作、滝口裕一



### 平成6年卒同期会 (平6)

大鳥精司君の千葉大学医学部附属病院長の就任という良きことをきっかけに、令和6年6月15日(土)、大鳥精司病院長就任祝賀会・

卒後30年記念同期会を、幕張ホテル ザ・マンハッタンで開催しました。会には、45名もの多くの級友が集まりました。平成6年卒の会は、令和元年が最後の開催でした。会に先立ち、逝去された宗永元君、外浦功君のご冥福を祈り黙祷をささげました。浦野友彦君の名(迷?)司会のもと、今回の会のまとめ役の植田琢也君の挨拶、定番の大野一人さんの乾杯につづき、欲談が始まりました。見やすく分かる人と少し間をおかないと思いましたが、話し出すと、あつという間に30年前の表情になりました。学生時代の思い出、仕事の話、趣味など話題が尽きることなく時間が過ぎてゆきました。

同じ医局の青木保親君から、大鳥病院長の活躍ぶりを示す様々なエピソードが紹介されました。その後大鳥病院長自ら、整形外科・大学対抗の駅伝大会で優勝を勝ち取ったエピソードに加えて、自身が毎日ランニングを続けていること、駅伝大会の選手選抜のために毎年4月に自らも含めて、タイムトライアルを行って1軍部員を決定している話など、普通の医師生活の中では考えられない、超人ぶりをスライドを使って披露してくれました。大鳥病院長に、今後の千葉大病院の発展を託して、記念品と花束、一同からの気持ちを贈りました。予定の3時間は瞬く間に過ぎ、2次会へと場を移しました。思い出に残る一日でした。

今回の会は、発起人の諏訪園靖君、浦野君の声がけから始まり、植田君がまとめ役を買ってくれました。実行委員も12名が様々な役割を分担し、メールベースの意見交換、No.1での打ち合わせを行いながら、今風に準備を進めることができました。飾らず、リラックスした会にしようという思いが実現した会でありました。会の準備自体が楽しく、会運営の手際よさ、チームワークの良さに感動していました。数えると約250件のメールが交わされました。こうしたメール交流が終了し、少し寂しい気がしていますが、次回の会を楽しみにしています。

### 写真右から (碓井宏和)

前列…奥川忠博、青木保親、松尾幸治、植田琢也、大野一人、大鳥精司、諏訪園靖、佐々木(古瀬)陽子、加藤直子、長哲、黄舜範

2列目…小高謙一、西村克樹、粕谷乾、高森尉之、國吉一樹、黒岩教和、碓井宏和、大門雅夫、永沢(白石)佳純、本間(鈴木)澄

恵、香西由美子、斉藤武  
3列目…木ノ下敬彦、門野源一郎、五十嵐正喜、染谷知宏、藤井隆之、秋池太郎、寺本靖、小谷俊明、網代洋一、浦野友彦  
4列目…河野世章、西平隆一、丸田哲郎、福田勝之、玉置正勝、平野聡  
5列目…松戸裕治、星本相浩、栗山根廣、笠川隆玄、指山浩志、田原正道 (敬称略)



平成13年卒 (95M) 同窓会 (平13)

去る令和6年7月14日、私たちが平成13年卒(95M)が久しぶりに集う同窓会が開催されました。卒業から23年ちよつと経つものの、受付に現れる仲間の顔は卒業時とほとんど変わっておらず??たちまち会場は学生時代に戻り欲談に花が咲きました。司会が異常に上手い志賀隆君の名進捗とともに、95Mのブラッド・ピットこと門平忠之君の乾杯で幕を開け、参加者一人一人が近況を報告、笑いあり、拍手ありのスピーチ続出でした。さらに、当時マレーシアから留学していたマスロジャ・モハマド君がなんとオンラインで母国から参加、これもまた爆笑のスピーチを繰り広げてくれました。教授や准教授、医局長、講師や助教、総合病院の部長や勤務医、開業医、フリー医師など、本当に様々な道に進み、それぞれのプライベートを抱えながらも、一人一人が個性を活かした活躍をしているのを目の当たりにして、お互いに刺激的な良い会になりました。最後は、学年で最初に母校の教授に就任した、我らが鈴木秀海君の一本締めでお開きとなり、



再会を約束して解散(の後、2次会)となりました。大変良い会を企画立案から担当してくれた主任幹事の村順一君をはじめ、幹事を引き受けてくれた横内裕敬君、青柳京子さん、成智美恵さん、太和田(谷)昌枝さん、ありがとうございます。写真:【前列右から】櫻井隆之、太和田(谷)昌枝、岩澤真理、平野智久、大門道子、画面内マスロジャ・モハマド、鈴木秀海、八代英子、成智美恵、中村順一、志賀隆

【中段右から】青柳京子、堀口健太郎、門平忠之、竹内啓善、横内裕敬、中田恵美里、重田文子、高田(塩見)真理子、安田直史、川田深志、藤川厚 【後列右から】加藤智規、上田和孝、本間順、田中宏明、大谷俊介、長沢崇、杉山正和、山田浩司、神谷一徳、松野大輔、中島正之、甲斐昌也、谷口俊文、矢野利章、下島和弥、深谷佳孝 (文責: 櫻井隆之)

タッチパネル 時代の残像

都川流 花 (ペンネーム・昭36)

歴史の証言者という言葉がある。歴史を見届けてきた場所や建物を指す言葉だ。世界遺産というお墨付きをもらった場所はそれに当たるだろうが、意外に身近なところにもそういうものがある。市ヶ谷駅を降りて堀に掛かる橋を渡って左に曲がると道が2本に分かれる。四谷駅に向かう道と新宿方面へ続く道だ。右の道を少し進むと防衛省の門がある。ここは嘗て陸軍士官学校があった場所だ。帝国陸軍の将校となる人物はここで教育された。その陸軍士官学校が1937年に座間に移ったあと、ここは大本営になった。日本軍の中核だ。軍への作戦命令の全てを担った場所だ。国民に対しては大本営から発表されていた。そして一転して、日本の敗戦後には占領軍の管轄に入り、その場所は勝者が敗者を「戦争犯罪人」として裁く《東京裁判》の法廷になった。開戦時の総理大臣東条英機被告以下の戦争責任者《A級戦犯》7名に死刑が言い渡されたのはここだった。東京裁判が終わったあと、ここは極東米軍の司令部となり、朝鮮戦争の際には国連軍司令部として使用された。その後ここは一転して賑やかな女性や子ども達の明るい声に満ちる場所に変わった。日本を占領している占領軍の家族が住むパースング・ハイツという名の居住地になったのだ。嘗ては重苦しい空気に包まれていたはずの東京裁判の法廷はガラんとした空部屋になり、その隣には壁を全面竹張りにして和風の雰囲気醸し出したバンブーラウンジという明るい娯楽室が作られ、昼間からカクテルなどを飲む人の姿もあった。敷地内にはボウリング場も

建てられた。戦後の東京に最初にできたボウリング場は青山と言われているが、それより生まれているが、それよりも先にこのハイツの中には占領軍家族のボウリング場があったのだ。ボウリングのボールを初めて転がしたのはここだった。当時、私は飯田橋にあった英会話学校に通っていた。戦時中、英語は「敵性語」と言われて使うことも勉強することも禁じられていた。レコードは音盤、エレベーターは昇降機と言ひ換えさせられていた。それが終戦と同時に占領軍の兵士が街中に溢れ英語の洪水になったのだ。その英会話学校のアメリカ人のチューターの中心にパースング・ハイツに住んでいる人がいて、ときどきそちらに呼んでくれたりしたのだ。現在のボウリング場は投げたボールが自動的にレーンの下を戻ってくるが、そのハイツのボウリング場はピンが立っている上に台座があり、そこに油まみれの服を着た日本人が座っていて、飛び散ったピンを並べ直したあとボールを拾ってガターの上を転がして戻ってくるのだった。ボールを投げるアメリカ人女性の華やかな衣装と、ボールを投げ返してくる日本人のヨレヨレの服は戦勝国と敗戦国を象徴するような光景で多少抵抗があったが、それでも初めて経験したボウリングはそれなりに楽しかった。すべては昔の話だ。しかしその後にもその場所では私の記憶に深く刷り込まれる出来事が起きていた。パースング・ハイツは日本に返還されて、現在は防衛省になっているが、その前は《陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地》という名称だった。あれは昭和45年だったと思うが作家の三島由紀夫が自分の結成した《楯の会》のメンバーを引き連れて入り、そのパルクローから声を振り絞って演説をしたあと割腹自殺をしたのだ。介錯を務めて三島由紀夫の首を斬り落とした部下の森田必勝もその場で割腹自殺している。そのあたりの道を通るとき私は思わず考える。ここは次にどんな日本の歴史を目撃するのだろうか。

## 千葉大学医学部ホームカミングデー

卒後50年（昭和49年）卒業生

卒後25年（平成11年）卒業生

令和6年11月17日（日） 於 医学系総合研究棟 第一講義室

令和6年11月17日（日）医学系総合研究棟（治療学研究棟）に於いて、昭和49年卒業生、平成11年卒業生をご招待し、千葉大学医学部ホームカミングデーが開催されました。

白澤浩ゐのはな同窓会副会長の開会の辞の後、千葉大学ゐのはな音楽部による弦楽三重奏の演奏、吉原俊雄ゐのはな同窓会長が挨拶され、式典が行われました。吉原俊雄ゐのはな同窓会長より、卒後50年卒業生には感謝状と記念メダルが、卒後25年卒業生には激励状とロゴマークバッジが贈呈されました。医学系総合研究棟アクティブラーニングスペースで記念撮影を行い、閉会となりました。



写真左から

昭和49年卒業生

最後列：栗原正利副会長、鶴田好孝理事、中村真人副会長、折井和雄、入江氏康、中村哲雄、山口英明、石毛憲治、諏訪園靖理事、安西尚彦理事

三列目：幡野雅彦監事、伊藤国明、安東昌夫、石神博昭、三上恵只、保坂泰昭、土佐純一、坪井秀一、入江澄子

二列目：五月女直樹、杉田孝子、佐藤茂樹、菊池典雄、杉田洋一、小林裕夫、田中正、長谷川純、松谷和徳、増村道雄、唐澤直子、白澤浩副会長

最前列：渡辺博子、野村恭子、田邊政裕、大鳥精司病院長、吉原俊雄会長、三木隆司研究院長、浅井隆善、江原正明、篠遠彰  
(敬称略)



写真左から

平成11年卒業生

最後列：諏訪園靖理事、幡野雅彦監事、安西尚彦理事、西田正人、三浦世樹、矢野浩二郎

三列目：鶴田好孝理事、中村真人副会長、田口明子、井上万里子、井上玄、窪田吉孝、岡田大介、井上祐三朗、萬納寺誓人

二列目：栗原正利副会長、三村尚也、松浦 玄、高橋宏和、松谷智郎、鈴木崇根、新保正貴、宮下智大、坂本信一、白澤浩副会長

最前列：田中美砂子、木下香、中田孝明、大鳥精司病院長、吉原俊雄会長、三木隆司研究院長、三澤園子、上原七生、中島順子  
(敬称略)



参加者全員で

令和6年ホームカミングデー会場の様子



白澤浩 副会長 開会の辞



あのはな音楽部 弦楽三重奏演奏



吉原俊雄 会長 挨拶



三木隆司 千葉大学大学院  
医学研究院長 挨拶



大鳥精司 千葉大学医学部  
附属病院長 挨拶



卒後50年(昭49)卒業生代表  
浅井隆善氏 挨拶



卒後25年(平11)卒業生代表  
中田孝明氏 挨拶



栗原正利 副会長  
長尾精一胸像再建除幕式について



令和7年度のホームカミングデーは

昭和50年卒業生（卒後50年）

平成12年卒業生（卒後25年）

上記学年の先生方をご招待し、  
令和7年11月の開催を予定しております。

追悼

磯野可一先生を偲んで

千葉大学大学院医学研究先端応用外科学教授

松原 久裕 (昭59)



当教室(旧第2外科)における第4代教授であり、千葉大学元学長、千葉大学名誉教授である磯野可一先生が令和6年4月に逝去されました。享年91歳でした。先生は昭和7年に生まれ、昭和33年に本学医学部を卒業されております。卒業後、当科に入局され消化器外科を中心とした外科医療、医学の発展に多大な貢献をされました。昭和60年に当科の教授に就任、先生の最も専門とされていた食道癌治療の功績を認められ、平成2年に第44回日本食道癌学会の当番世話人を務められております。当時、当科でも積極的に導入し、本邦でも広く行われ始めてきた食道癌における3領域リンパ節郭清における3領域領域郭清との比較を全国ア

整理の手伝いをしたことを鮮明に覚えています。本学においては平成5年に医学部附属病院長に就任され、同時に全国国立大学附属病院長会議、常置委員会委員長としても活躍されました。その後、平成10年には千葉大学学長に就任され、医学部のみならず千葉大学の発展に尽力されました。そのリーダーシップとビジョンによって、大学の発展に多大な貢献をされ、在任中に千葉大学は多くの面で成長し、国際的な評価を高めることができました。先日、東京医科歯科大学と東京工業大学が合併されましたが、先生の洞察力は鋭く、以前より医工連携の重要性を認知されており、本学の医学部と工学部の連携をより一層深め発展させるため2003年に現在のフロンティア医工学センターを開設されております。また、当時国立大学協会理事として国立大学においてたいへんな変革をもたらすことになる独立行政法人化に関して、文部省・文科科学省と国立大学を進展させるための方策に関して喧々諤々ありあったと聞いております。私も教授を拝命した後に国立大学が法人化した事に関して、きちんと検

証する必要性、重要性に關し幾度となくご指導頂きました。私自身、外科学一般から食道癌治療まで指導頂き、学問に対する真摯な姿勢を学びました。また、前述の法人化を含め教授になってからも諸事に関し広く深い視点からの洞察、探求、方向性決定の重要性など多方面にわたり指導いただきました。たいへん真面目で厳しい先生ではありましたが、

同時にたいへん優しい方であり、いろいろ気にかけていただき、節目節目においていつも喜んでいただけました。また、令夫人が残念ながら先にご逝去されましたが、大学病院に入院されていたときに毎日通われ、親身に付き添われていた光景が今も目に浮かびます。これまで先生の長年にわたるご指導に感謝申し上げますとともに、心より深甚なる弔意を表します。

島崎 淳先生のご逝去を悼む

千葉大学大学院医学研究泌尿器科学教授

市川 智彦 (昭59)



千葉大学名誉教授、島崎淳先生は令和6年5月8日にご逝去されました。享年93歳でした。眠るようにならかに旅立たれたとお聞きしております。

先生は昭和6年2月に出生され、昭和29年に千葉医科大学を卒業後、千葉医科大学皮膚泌尿器科教室(昭和35年7月から泌尿器科教室)に進まれ、群馬大

ました。教育・学会・社会的活動では、千葉大学医学部附属動物実験施設長、千葉大学評議員等を歴任し、大学の発展に尽力されました。また、平成6年に創設された日本神経因性膀胱学会(現日本排尿機能学会)の初代理事長ならびに日本アンドロロジー学会理事長を務めました。第4回日本アンドロロジー学会、第2回日本神経因性膀胱学会、第7回日本Endourology、ESWL学会、第53回日本泌尿器科学会東部総会、第83回日本泌尿器科学会などの会長を歴任し、泌尿器科学の発展、学問の向上に貢献されました。文部省(現文部科学省)、厚生省(現厚生労働省)の研究班班長などを歴任し、泌尿器科領域特に前立腺癌の研究や診療の発展につながる成果を挙げられました。

島崎先生は泌尿器科学領域全般において多数の業績を挙げられました。特に、先生が世界に先駆けて発見された5 $\alpha$ -還元酵素の前立腺における役割、前立腺癌のホルモン依存性喪失に関する研究、前立腺癌の発癌や進展に関する分子生物学的な研究などについては、国内のみならず諸外国においても高い評価を受け

平成16年からは、市川が第4代教授として、泌尿器科学の歴史を引き継いでおります。私にとつて、島崎先生は父のような存在であり、臨床の手ほどきから、基礎研究のイロハに至るまで直接ご指導いただきました。退官後も、暑氣払いや忘年会などの医局の行事に必ず顔を出され、若手医局員と楽しそうに会話をされる様子もいつも拝見しておりました。そして、平成25年5月には、長年のご功績に対して瑞室中綬章が授与されております。令和7年3月には市川も定年退任となります。今後は、島崎先生の築き上げられた教室の基盤と今後の成果がさらに発展していくよう、教室員の活動を支えていきたいと考えております。ここに先生のご功績を讃え感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

同窓会員のご逝去に際し、

弔文の掲載をご希望される

方は、同窓会本部へ原稿を

お送り下さい。

# 佐藤甫夫先生への感謝を込めて

千葉大学名誉教授（精神医学）  
国際医療福祉大学大学院副大学院長

伊 豫 雅 臣（昭59）



千葉大学名誉教授（精神医学）の佐藤甫夫先生におかれましては、2024年（令和6年）7月22日に永眠されました。享年89歳でした。

佐藤先生は千葉大学医学部を1960年（昭和35年）にご卒業になられ、精神神経医学教室に入局されておられます。先生が医師になられた後、医学界は変動の時代を迎え、千葉大学精神神経医学教室も1969年（昭和44年）3月21日に医局が解体され、千葉大学精神神経科医師連合が結成されるという状況でした。

私が最初に佐藤先生と親しくお話をさせて頂いたのは、私が千葉大学医学部6年生（1983年）の8月でした。私は学生数人と放射線医学総合研究所にMRIの見学に行ったこと

ろ、MRI室に当時助教であつた佐藤先生がおられました。私は精神科と脳の画像診断に興味がありますとお伝えすると、佐藤先生は「いいよ、やらせてあげる」と笑顔で即答してくださいました。そこで、1984年（昭和59年）6月に千葉大学精神神経科に入局しました。

私が医局で核磁気共鳴の勉強をしていると「その微分方程式はラプラス変換を使うといいよ」とおっしゃられ、推薦書を教えて下さいました。私は浜松医科大学助教時代、大学院生に「PI」の定量解析を教えているときにラプラス変換で解けると本を示したことがあります。佐藤先生の真似をしたのですが、密かに感謝していました。

佐藤先生は1987年8月に第6代目教授になられました。あるとき学位取得の相談で医局に伺うと、川村光毅先生（元慶応大学解剖学教授）がおられ、結局3人でお酒を飲み始め、医

学部近くの佐藤先生の官舎に川村先生と泊めて頂くことになりました。今考えると恐れ多いのですが、若造にも大変気さくに対応して下さいました。

2000年6月に私が第7代目教授になってからも時々医局にお見えになりましたが、私の教室運営には何もコメントせず、静かに見守ってください、大変

## 谷口 克先生…その挑戦

千葉大学大学院医学研究細胞分子医学教授

古 関 明 彦（昭61）

谷口克先生（免疫学者・千葉大学名誉教授）が、令和6年4月8日にご逝去されました。谷口先生は、その独創的な才能と人柄により、一研究者として免疫学を中心とした基礎医学の発展に貢献してきました。

谷口先生は、昭和15年12月2日新潟県長岡市に生を受け、昭和42年3月千葉大学医学部を卒業されました。千葉大学医学部内科学における研修の後、昭和49年3月千葉大学医学部病理学・岡林篤教授のもとで博士課程を修了し、医学博士の学位を授与されました。

そこでの人材育成に貢献していらつしやいました。加えて、基礎研究を支える社会と研究者のリンクを広げていくという点でも大きな貢献をされてきました。谷口先生が、その生涯で行っ

心強かったです。私は本年3月で教授を定年退職しました。これから気楽に佐藤先生とお話できると思っていた折のご逝去で大変残念でなりません。佐藤先生の在りし日のお姿を偲び、精神医学と若手の育成にご高見下さったことに感謝し、心より哀悼申し上げます。

てきた挑戦と、その結果としての貢献を振り返りたいと思います。谷口先生は、昭和15年12月2日新潟県長岡市に生を受け、昭和42年3月千葉大学医学部を卒業されました。

千葉大学医学部内科学における研修の後、昭和49年3月千葉大学医学部病理学・岡林篤教授のもとで博士課程を修了し、医学博士の学位を授与されました。その

境疫学研究施設とオーストラリア Walter and Eliza Hall Institute of Medical Research において、多田富雄先生と Jacques Miller 博士それぞれのもとで研究を

行い、昭和55年6月に同施設に教授として着任され、平成16年3月まで千葉大学に在職されました。平成13年7月から平成25年3月までは、理化学研究所に谷口先生ご自身が創設された免疫・アレルギー科学総合研究センターのセンター長、平成25年4月から理研統合生命医科学研究センターにおいて、研究室主宰者、あるいは、名誉研究員等としてご逝去される前日まで研究活動に従事されました。

谷口先生の研究は、1970年代に多田富雄先生のもとでなされた免疫抑制という現象の発見に始まり、谷口先生は、免疫細胞であるTリンパ球の一部には免疫抑制機能が賦与されていることを実験的に示すことに成功しました。その後、

谷口先生は、現象として見出された免疫抑制を具体的な細胞や分子のレベルでのメカニズムに落とし込んでいく研究を粘り強く継続され、免疫抑制現象の発見から約20年後に、免疫制御機能を有するTリンパ球分画として「NKT」細胞を明確に定義するに至りました。NKT細胞の発見は、様々な視点から当時の免疫学の知識体系に大きなインパクトを与え

るものであり、その後の免疫学研究の中に新しい研究領域を切り開くことになった大きな発見でした。この発見は、谷口先生が、研究の流行に迎合することなく、自らに課したテーマに忠実にあり続けたことによってもたらされました。谷口先生が切り開いた新しい研究領域は、世界中の様々な研究者たちによって引き継がれ、その前線は谷口先生がいなくなつた今もたゆまず前進しています。

卓越した研究者であつた谷口先生は、卓越した組織のリーダーでもありました。硬直化していた日本の研究システムに挑戦し続け、そこに変化をもたらしました。千葉大学では、医学部附属高次機能制御研究センターの設立や大学院システムの再構築などに代表される大学改革を国内の大学に先駆けて行われました。その後、理化学研究所において免疫・アレルギー科学総合研究センターを設立し、それを国際競争力のある研究組織へと育て上げられました。そのいずれにおいても、谷口先生は、短期的な組織運営の最適化と、長期的に研究を担っていく若手人材の育成とを調和させていくために、様々な挑戦的な施策を柔軟に打ち出し実行さ

れしました。谷口先生の30年にも及ぶ努力の結果として、数多くの人材が育成され、研究者として羽ばたいて行きました。谷口先生の挑戦は、今でも随所に制度として刻印されています。谷口先生は、ご自身が所属する研究組織の外でも、研究者コミュニティをより開かれたものにし、若い人材を惹きつけるものにしていくために、多くの働きかけを続けていらつしやいました。基礎研究を支える社会と研究者をつなぐために、日本学術会議など各省庁のもとにある委員会や研究や教育をサポートする財団の委員などを数多く歴任され、若手研究者を激励するという視点から多くの発言や提言をされてきました。また、基礎科学の成果をわかりやすく説明して社会還元するために、マスコミや研究組織を通じてのアウトリーチ活動も積極的に行つていらつしやいました。さらに、若手人材の国際的な流動性を高めるためにいくつもの施策を打ち出され、彼らの

に大きな努力をしていらつしやいました。谷口先生は、様々な視点から研究の未来を築き上げていくための挑戦をされてきました。

に大きな努力をしていらつしやいました。谷口先生は、様々な視点から研究の未来を築き上げていくための挑戦をされてきました。

このように、谷口先生は専門である免疫学にとどまらない基礎医学研究において挑戦を続け、その結果として、広く国際的に認識される大きな貢献をされました。谷口先生の挑戦は、さらに、未来を担っていく若手研究者をサポートしていくことに向けられ、谷口先生が作られた大きな傘の下から多くの研究者が羽ばたいていっています。谷口先生の視線は、その死の直前であっても未来に向けられ、未来に向けて挑戦を続けられていました。その

大きな意志を担う実体は残念ながら失われてしまいました。しかしながら、その意志は谷口先生のもので育ってきた人材や谷口先生が作られてきた制度など様々などところに今も刻印されています。今や、谷口先生から受け取ったバトンがある重さをもって私たちの手の中にあります。そのバトンの重みを皆様と共に実感することで、谷口先生には安心しておやすみくださいと申し上げたいと思います。



多田先生の時代から動物実験の補助をいただいていた技術補佐員・内田氏の退職お祝いの会

欧州医学史巡り

ライデン

杉田 克 生 (昭54)

「落ち着いた大学の街」と称されるライデンを紹介する。オランダ最古のライデン大学は、「80年戦争」と呼ばれるオランダ独立戦争最中の1575年にオラニエ公ウイレム1世によって創設された。ライデンを死守した市民らが、「免税よりも大学を」と望んで得た大学であり創設由来が明確であることは銘記しておきたい。何故ならば欧州ではライデン大学より古い大学が多くあるが、本来キリスト教施設から創設されており、正確な創設年や創設者は史料からは証明できない。



写真1 ブールハーフェの銅像 (旧医学部棟向かいの公園内)

薬剤器具、キュンストレイキ(紙製の解剖模型、肖像画、博物標本などがある。建物はオランダで初めて医学生に対してベットサイドテーチングが行われた旧セシリア病院であり、1991年博物館として新装オープンした。男女各6床の専用病室は展示室となっている。以前本誌で紹介したパドヴァ大学本館(イル・ボッ・牡牛館)の解剖講堂、植物園、ベットサイドテーチングがライデン大学へ大きな影響を与えている。目

玉は、18世紀に完成し、19世紀初めに取り壊されたライデン大学の解剖講堂の再現展示である。解剖講堂はパドヴァ大学同様すり鉢状の構造で、解剖台がターンテーブルになっている(写真2)。

顕微鏡を世界で初めて考案したのはアントニ・ファン・レーウエンフックである。顕微鏡とはいえマツチ箱程度の2枚の金属板の間に小さなレンズがあり、どんな標本もネジでとめて観察した。また外科医コーネリス・ゾーリンゲンが改良を加えた外科器具、生理学者ヤコフ・ヨングロッドが開発した人工心肺機やウィルム・ヨハン・コルフが設計した腎透析器(写真3)

など種々の医療機器が展示されている。この腎透析器が日本に導入され、九州大学病院内科で実際に応用された。同行の同大学卒業の

先生が大変懐かしがっておられた。なお筆者が訪問したのは2006年11月であり、その後同館は2017年新装開館した。

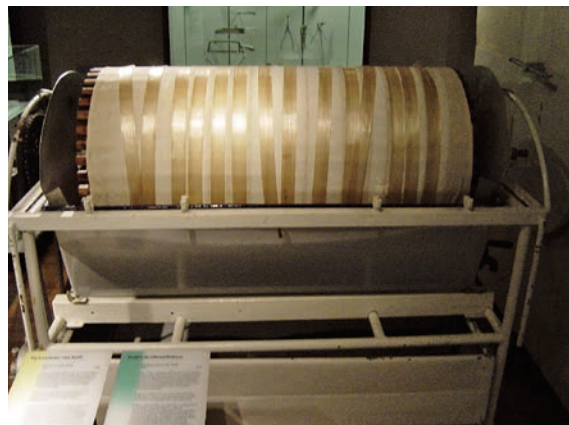


写真3 コルフの腎透析器



写真2 すり鉢状の解剖講堂



# 雑文雑談 狭心症の話

石 出 猛 史 (昭52)

狭心症とは、冠状動脈の器質的あるいは機能的な一過性の血流障害によって、心筋細胞の酸素欠乏を生じ機能不全をおこした状態である。胸痛などの特徴的な症状を伴うことが多い。多くのテキストでは、「狭心症」とは症候名で、弁膜症・心筋症などの疾患を含むとあるが、実地の診療では疾患単位の「心」として扱っているであろう。

1768年にロンドンのロイヤルカレッジで行われた、ヘバーデン William Heberden (1710-1801) の講演が最初の学術的記述とされている。この時 angina pectoris の意味で、Heberden's asthma という語が用いられている。しかし医師が書いたものではないが、学術的に耐えうる最初の記録は英国のハイド Edward Hyde (クラレンドン伯爵 1609-1674) が父親の発作時の様子を詳細に記した日記の記述であるとされている。1788年剖検により、狭心症と冠状動脈の硬化狭

窄との関係を最初に明示したのはジェンナー Edward Jenner (1749-1823) である。ジェンナーはこの症例について、ヘバーデンや師のジョン・ハンター John Hunter (1728-1793) にも相談しているが、所属する医学研究サークルには受入れられなかった。当時はまだ系統立った病理解剖法が確立されていなかったことも関係していたとも言われている。この当時はまだ心筋梗塞の概念は明らかではない。ジェンナーが自験例から、牛痘種痘法が天然痘の予防に有効であったという有名な論文を刊行する10年前である。この他にもジェンナーはリウマチ性心疾患についても最初に客観的な証明を行っている。循環器領域におけるジェンナーの功績は大きなものである。最初に狭心症の診断法として確立して、現在でもその重要性を失っていないのが心電図法である。自然発作中の心電図記録は、1918年バウスフィールド C. Bousfield によって報告され

た。この当時の誘導法はI・II・IIIの標準双極肢誘導のみである。1932年に胸部誘導法が確立され、1942年ゴールドバーガー Goldberger が現在の標準12誘導法を完成させた。誘導法の開発は心臓の病変部位の診断だけではなく、狭心症と心筋梗塞の鑑別のために必要であった。現在でもこの記録法はQ波梗塞／非Q波梗塞、ST上昇型／非ST上昇型など、予後推定・治療法の選択などにその有効性を広げている。次いで冠動脈の病変部位を可視化することによって、その診断治療に画期的な進歩をもたらすことになった。1958年クリーブランド・クリニクのソーンズ E. Mason Sones, Jr. が26歳のリウマチ性心疾患の患者にカテーテル検査を行っていた際、偶然カテーテルの先端が右冠動脈に入り込み、選択的冠動脈造影が行われた。1970年代に入ると、冠動脈が正常像を示す狭心症例、検査中に冠動脈が収縮をおこして狭心症を発症した例などが報告され、冠動脈の攣縮によっておこる狭心症の概念が確立した。選択的冠動脈造影法は、冠動脈バイパス術の確立とカテーテルによる治療（イ

ンターベンション）の発展をもたらした。最初の冠動脈拡張術PTCAは1977年、バルーン・カテーテルの開発者であるグリュンツィヨ Andreas R. Grüntzig によってスイスのチューリヒで行われた。症例はヘビースモーカーの38歳の男性である。狭窄部位は左前下行枝の近位部であった。狭窄部の拡張に成功したが、2000年に再度発症してステントを留置した。2014年には右冠動脈に別の狭窄をおこして薬剤溶出性のステントを留置したが、2015年現在79歳で元気に過ごしているということである。グリュンツィヒは1982年自家用飛行機の墜落事故で亡くなった。従って第一例目の長期にわたる成功を見届けることはなかった。

2023年日本循環器病学会などが「冠攣縮性狭心症と冠微小循環障害の診断と治療」というガイドラインを発表した。筆者が英文で単独で上梓した論文も引用されている。他には見当たらない。旧第3内科が循環器に特化した内科学講座として開講して50年になる。さらに旧第2内科時代、当時の斎藤十六教授が循環器の研究を主宰され

た当時まで遡ることができ。オー・ラ・ラ OBの感想である。プリンツメタル M. Prinzmetal は発作時に、STが下降せずに上昇する例を報告した（異型狭心症）。貫壁性に近い血流障害の重篤度を反映していると考えられている。冠攣縮性狭心症が夜間就寝中に多く発症すること、その誘発検査法としてアセチルコリン負荷法が有効であることから、副交感神経の関与が強く推測される。自験例では夜中に就寝中の患者を心電図モニターで観察中、いきなり心拍数が減少し、それに続いてSTが上昇していった。ニトログリセリンを持って病室に行くこと発作の最中であった。この例では夜間の副交感優位の状態にさらに副交感系の緊張が加わった印象がある。狭心症時の不整脈については多くの成書で記述されているが、徐拍に言及したものは余り見られない。近年新しく加えられた狭心症の分類にコーニス症候群 Kounis syndrome がある。アレルギー性急性冠症候群と呼称される。様々なアレルゲンに対するアレルギー反応・強力な免疫反応により、冠動脈の攣縮あるいは冠動脈の血栓形成に

よっておこるとされており3型に分類される。筆者はまだ実見したことがない。

前述のバウスフィールドは、発作時の所見として右脚ブロックとT波の陰転に触れているだけでSTの偏位には言及してこない。STの偏位が重視されるようになったのは、おそらく運動負荷法の導入と関係があるのではないかと考えている。

市内の大きな書店の医学書のコーナーに心電図の本が幾つか並んでいた。どの著者も心電図の研究歴は長い。いわゆるハウツー本である。心臓の電気生理学の研究書は置いていない。未解決の問題は五万とあるというのに。



ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら当会にもご一報ください。

電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753

e-mail : info@inohana.jp

会員から

馬術の「バロン西」中尉と  
精神科・松本胖教授のこと

寺澤捷年(昭45)



パリ五輪の総合馬術(団体)で日本選手団は見事銅メダルに輝いた。馬術競技としては92年ぶりの快挙であるという。このメダル獲得の引き合いにだされるのが1932年のロスアンゼルス大会・馬術障害飛越で金メダルに輝いた西竹一中尉(1902-45)である。西は男爵家出身の陸軍騎兵将校であったので「バロン西」が愛称になっていた。

このことが2024年8月3日付けの『毎日新聞』で甥の松本生(すすむ)さんの談話と共に報道されたが、この記事によって、生さんのお父上が本学精神科の松本胖教授であることを知った。つまり、西竹一中尉(後に大佐)の奥さんの妹が松本胖教授夫人だと言

うのである。報道によると「バロン西」中尉は亥鼻に居室を構えており、千葉大学に通学していた松本胖青年と意気投合し夫人の妹を娶らせたとのことである。想像するに、松本青年は敬意を以て積極的に西中尉宅に押しかけ、四方山話に花を咲かせたに違いない。その人柄に西中尉が惚れたのであろう。

戦前の五輪における馬術障害飛越競技は最終日の最後をメイン会場で飾るもので、ここでの金メダルは超格別なものであったという。従ってロスアンゼルス市はバロン西に名誉市民の称号を与えている。その後の日米関係の悪化は歴史の示すとおりであるが、私が想像するに「ロスアンゼルス名誉市民」が災いして、バロン西は玉砕の硫黄島に派遣(処分)されたのだと思っ

ところで、私は精神科総論をあの道路を隔てた精神科の由緒ある講堂で松本胖教授から受けることが出来

た(昭和43年)。豪放磊落な先生の最初の言葉に私は強い衝撃を受けた。「諸君! 道路の向こう側の田の字は獣医学に他ならない。精神を学ばずに人間は理解できない」とキツパリと宣言したのであった。

勿論、先生は「自分が「バロン西」の義弟であることなどは明かさなかつたが、昭和43(1968)年に松本教授の精神科に入局した太田東吾先輩にお聞きしたところ、松本教授はそれまで脳の病理学一辺倒であった精神科に脳波学、精神分析学、心理学、生化学、脳病理学、脳外科学などを幅広く導入し、今日の精神科学教室の礎を打ち立てた度量の広い教授であったという。

合掌

本年9月26日に同窓会発行の「INOHANA NEWS」に松本生先生(昭36卒)のご寄稿があり、パリ五輪の馬術銅メダリスト田中利幸選手の来訪を受けたこととバロン西から貰った記念メダルの写真が掲載された。

小象の会

NPO小象の会理事長

篠宮正樹(昭50)

2024年小象の会は、2024年より対面の講演会を再開。3月30日の第38回小象フォーラムは、「腰痛や体力低下の人にできる運動の実技」。6月1日は「読書の奨励」。会報40号と41号に内容を掲載。両講演とも内容が掲載。両講演とも内田大学先生が動画を撮影・編集し、動画を視聴できるQRコードを会報40号、41号の1頁下方に掲載。

3月30日の講演会はQRコードで申し込みを受け付けたのですが、会員の多くが不慣れであったせいか申し込みも少なく、当日のZoom同時配信の視聴も数名でした。以前は県民だよりに案内を掲載し、参加者を募りましたが、Zoomの便利さも体験し、動画と会報で良いと考え始めたのでしようか。今後の情報提供の方法を検討中です。会員の協力のもと、様々な生活習慣病をその時々

な生活習慣病をその時々話題も含めて採り挙げ、講演会を開き会報に掲載してきましたが、現在でも「もう病気になるったら終わり」という気持ちの方が多いようです。少し前向きになっていただく必要があると感じ、「読書が生活習慣病を乗り越える」をテーマにしました。認知行動療法の講演も予定しています。

本は時間と空間を超えて著者と対話できます。読書の限らない効用を述べました。私は出版文化産業振興財団(JPIC)の読書アドバイザー資格を取得。さら

4月から7月まで淑徳大学総合福祉学部や県立保健医療大学などで、読書の効用を述べました。講義の中で紹介した本の「一覧表も配布書籍を指定して読んで考えたことを書く、あるいは「感銘を受けた本を挙げてください」との課題を出しました。その回答は大いに私の勉強になりました。以上の経緯と私の読書スタイルなどを会報41号に記載しました。小象の会のHPより会報1号から最新41号までダウンロード可能です。今後とも人々の幸せな人生の一助となりたく、注力します。

**小象の会 会報第41号**

NPO法人 生活習慣病防止に取り組む市民と医療者の会

2024年9月1日

特集: 前向き! が病を乗り越える

それには読書

2024年6月1日  
小象フォーラム  
於・千葉市民会館

内容

このお話を企画した理由  
素晴らしい脳  
JPIC読書アドバイザー養成講座  
大学生に話していること  
私の読書スタイル  
読書が前向きを創る  
ほんの紹介

人生に必要な3つのもの  
本・人・旅  
出口 治明 氏

右の二次元コードから  
動画でさらにくわしく  
小象フォーラム講演を  
ご視聴ください。

撮影と編集  
内田大学理事

人間の脳の働きは驚異的  
体験が大切

何歳でも記憶力は衰えない  
思い込みがじゃまをする

忘れるから  
脳は積極的に働ける

よく生きる (創造)

うまく生きる (通商)

たくましく生きる (本業)

生き抜く (生命維持)

脳筋 大脳皮質 小脳 脳幹 延髄

本・人・旅

ぞういり見方もあったんだ!

ちゃんと前を向ける

病を得ても共存できる

- 1 -

### るのほな同窓会支援

## 第49回「るのほな美術展」を終えて

(令和6年9月9日(月)～15日(日))

橋本 英明 (昭45)

今年「9月9日～9月15日」の会期で、例年通り「銀座・向日葵画廊」で開催されました。当会は「るのほなOBの同志」による伝統ある絵画クラブで、年一回銀座で開催されて参りました。しかしながら、この数年は会員の高齢化や新入会員の減少という状況が続いております。加えてコロナ感染症の影響が来館者数



写真右から：橋本英明 (昭45)、宮下久夫 (昭38)、吉川廣和 (昭40)、菅ヶ谷純弘 (昭45)

にもお伝え致しました。●来期の第50回(9月8日～9月14日)を最後に閉会する事と致しました。残念ですが、これも時代の流れであると考えます。\*これまで永い間、ご協力頂きました「るのほな同窓会」に改めてお礼を申し上げます。来年9月の展覧会には沢山の方々に来て頂きたいと願っております。

### 第49回るのほな美術展 出品作品

氏名	卒年	作品
宮下 久夫	昭38	①あじさい ②コスモニア (ペゴニア) ③母の日
吉川 廣和	昭40	④ホームカミングデー懐古 ⑤ホームカミングデー羨望
野口 眞利	昭40	①七月の月山湖 ②笹野観音堂 (米沢) ③さいたま市立病院
野口 眞利	昭40	①La Boheme ②モンマルトル美術館 ③江古田のまち ④ノルバン通り
野口 眞利	昭40	⑤ルビック通り ⑥ムーラン・ド・ラ・ギャレット
島田 哲男	昭41	①人物習作 ②人物習作 ③裸婦 ④裸婦
橋本 英明	昭45	①黒い勇者 ②19世紀の風景 ③D&Gドレス
菅ヶ谷純弘	昭45	①街の孤独A ②街の孤独B ③街の孤独C
榎本 貴夫	昭47	①月宵 - 寶峯湖・中国 -

## 千葉大学医学部剣道部便り

### 横手幸太郎学長就任と

### 第六十七回東医体団体戦3位のお祝い会

花澤 豊行 (平1)

令和6年9月7日、千葉市中央区栄町にある割烹「庄乃弥」において、横手幸太郎先生の千葉大学学長就任を祝う祝賀会を開催しました。そして、8月3日に行われた第六十七回東日本医科学生総合体育大会で、千葉大学医学部看護学部剣道部が団体戦で第3位となりました。当日は午後5時開始の会でしたが、待ちきれなかったかのように早い時間よりOB・OCの皆様にお集まりいただき、総勢50名の参加者となりました。祝賀会は、私、部長である花澤の開会の言葉から始まり、横手学長のご挨拶、そして更科先生の乾杯の発声で開会されました。剣道部では、参加者全員からお話しいただくのですが、話が長くなることも多いので、タイムキーパーを用意し、試合と同じ3分一本勝負のスピーチとしました。懐かしい先輩方々の昔話や近況に盛り上がり、暑さの残る9月初旬のヒレ酒もとても美味しくいただきました。横手学長も病院長時代に比べて不眠に悩まされることが少なくなったと話され、病院長時代のご苦労を感じさせられる場面もありました。学生時代から気合を入れて頂いた更科先生、鈴木先生、長尾先生をはじめ多くの先生方のお話には、幾つになっても変わらぬ真つ直ぐな剣道部気質を感じられました。3位入賞を果たした生稲主将からは来年も同じメンバーで東医体に臨むとの報告があり、来年も入賞した暁には盛大に祝賀会を催すことを約束しました。3時間の宴会はあっという間に過ぎましたが、その熱気冷めやらぬままお決まりの円陣を組み、部歌を斉唱し、皆の期待を一身に背負った横手学長の胸上げで会を締めくくりました。参加者は学年順に以下のとおりです。(敬称略、卒年)



- 山本智朗(昭59)、田邊信宏(昭60)、五十嵐裕章(昭60)、新藤寛(昭61)、川島辰男(昭61)、川島広江(昭61)、横手幸太郎(昭63)、江澤英史(昭63)、吉村清司(昭63)、飯塚美徳(昭63)、猪狩英俊(昭63)、窪田容子(昭63)、花澤豊行(平1)、小林裕之(平1)、知久毅(平1)、尾辻瑞人(平2)、石川文彦(平2)、清水直樹(平2)、小島博之(平3)、石塚満(平3)、大門雅夫(平4)、松尾幸治(平4)、伊良部真一郎(平16)、石橋克彦(平22)、齊藤暁人(平22)、小浜信太郎(平22)、土屋流人(平26)、小野里優希(平26)、三宅智也(平26)、澤田大輔(平26)、石野宏実(平27)、石野貴雅(平28)、吉村悟志(平29)、廣富紗雪(令4)、樋渡俊介(令4)、稲葉弥生(令5)、徳武輝(令5)【学生】佐藤潤弥、神津隆之介、大野翔夢、小林隆誠(医5)、生稲和輝(医3)、田中海雄、吉澤知住(医2)、以上。

# 学内情報

## るのほな同窓会支援

### 第15回 白衣式 会長祝辞

2024年11月29日(金)

るのほな同窓会長

吉原 俊雄 (昭53)

白衣式に臨まれる学生の皆さんに、るのほな同窓会を代表して一言お祝いを述べさせていただきます。

皆さんは、これまで多くの先生方から基礎および臨床医学を学び、身につけた知識を活かして「student doctor」として病院の臨床実習に臨みます。病院において実際の診療活動を経験し、患者さんとも直接接する機会が始まります。この経験は必ず将来の優れた医師や研究者になるために大切なものです。また、今日の姿をご覧になったご家族の皆様にとりましては、本

学入学時に比べ、頼もしく輝かしく写っているに違いありません。改めてお祝い申し上げます。千葉大学医学部同窓会は「るのほな同窓会」と称されます。同窓会は「白衣式」をはじめ、研究発表の場である「ちばBCRC」、「解剖実習における白菊会」、「亥鼻祭」など学生さんへの様々な支援を続けています。

本年は千葉大学医学部創立150周年を迎え、節目の年でもあります。様々なお祝いのイベントも開催されました。11月17日には戦時中に金属類を供出し消失



【写真提供：フォトチョイス】



【写真提供：フォトチョイス】

していた初代校長長尾精一先生の胸像も同窓会総力をあげて復刻、祝除幕式を敢行しました。上野の西郷隆盛像と同じ高村光雲作の胸像であり、未来に向けての本学シンボルとなるものです。白衣式の行き帰り、また折に触れ仰ぎ見ることになると思っています。創立以来の「千葉医学の伝統」はすぐれた臨床医の輩出でありました。同窓会で製作いたしました旧本館の記録映画には「千葉医学の伝統」の一

端が凝縮されています。白衣式を迎えた学生さんと共にご家族の方々にも是非ご覧いただければと思います。

皆さんが将来、臨床医、研究者、教育職あるいは医療行政にも関わるすばらしい医師になることを願っています。私のお祝いの言葉とさせていただきます。今後の活躍を同窓会一同期待しております。頑張ってください。

### 誓いの言葉

白衣を纏うこの日を迎え、私たちは医師としての使命と責任を深く心に刻みます。患者さん一人ひとりに対して、常に親切心と思いやりを持ち、病気だけではなく、その人自身に向き合う姿勢を忘れません。また、誠実で高潔な態度を貫き、信頼される医師であることを目指します。

私たちは卓越した知識と技術の追求を怠ることなく、日々成長し続けることを誓います。どんな状況でも臨機応変に対応できる柔軟性を持ち、患者さんの心の拠り所となるよう努めます。

他の医師や多職種の医療者など周囲への感謝を忘れず、チーム医療においてリーダーシップを発揮し、患者中心の医療を実現します。

この白衣は責任の象徴であり、私たちはその重みを受け止め、倫理観と誠実さを持つて医学の進歩に貢献します。そして人々の命を守る医師として、初心を忘れず常に自己を高め、最善を尽くすことをここに誓います。



【写真提供：フォトチョイス】

# 亥鼻祭2024開催のご報告

亥鼻祭実行委員会サークル

委員長 医学部3年 尾高由展  
医学部3年 阪みなみ

令和6年11月3日、亥鼻祭2024が亥鼻キャンパスにて開催されました。当日は秋晴れの中、約2200人のご来場者様をお迎えすることができました。



るのほな記念講堂では医学部より小野寺淳先生、薬学部より根本哲宏先生をお招きし講演会を開催いたしました。また、市民の皆様へ向けた体験型講座が、看護学部主催で行われました。そしてるのほな同窓会様にご協力いただき、「千葉大学医学部旧本館85年の記憶」を上映させて頂きました。

野外ステージでは、亥鼻バンドサークル、IDC、舞部による公演が行われ、ステージ前での10団体の食品販売も盛況となりました。

看護学部棟では受験相談会や医学部・薬学部の研究室紹介などの学術系企画、謎解き企画やゲーム企画などが行われました。

コロナ以前の大学祭らしい活気が戻り、受験生やそのご家族だけでなく、地域の方々まで幅広くお楽しみいただきました。

今年度も多くの先生方、企業・団体様のご支援ご協力に支えられ、無事に亥鼻祭を開催することができました。深く御礼申し上げます。来年度以降も皆様に愛される亥鼻祭を創り上げられるよう委員一同尽力して参ります。

今後ともご厚情を賜わりますようお願い申し上げます。

# 「千葉大学医学部旧本館85年の記憶」

## 亥鼻祭での上映

るのほな同窓会長 吉原俊雄(昭53)

11月3日(日) 令和6年度の亥鼻祭が開催され、亥鼻祭実行委員会からの依頼により旧本館のDVDが記念講堂で上映されました。記念講堂前では、朝からすでにステージ上でバンド演奏も行われており、また快晴に恵まれていたこともあり模擬店はじめ学生さん達は活発に動いて

のコピーも参考として差し上げました。上映後、学生さんにくくと、やはり旧本館についてのイメージは薄く、むしろ父母の人達の方が感心をもって見ていたということです。また、旧本館と記念講堂の間に、同窓会により長尾精一初代校長の胸像の復刻がなされていること、11月中には学生さんの目に触れることも同時に伝えました。受験を考えている高校生の姿もみられました。



写真 亥鼻祭ゲート前で、亥鼻祭実行委員長の阪みなみさんと尾高由展君と記念撮影



# 同窓会員著書の紹介

森嶋友一(昭60)著

## 「外科医ビルロートと

## ブラームスの往復書簡」

三省堂書店/創英社 定価 3,850円(税込)



世界で初めて胃腸手術に成功したビルロートは、グライフスヴァルト大学入学時、ピアニストを目指すほど音楽に没頭していました。初めて外科教授として迎えられたチューリッヒでは、ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラを弾くだけでなく、若手同僚の教授たちを自宅に招いて室内楽も楽しむほどでした。さらに地元の「新チューリッヒ新聞」にはコンサート評も投稿していました。その過程で、四歳年下のブラームスと知り合い、意気投合することになりました。

1865年11月からビルロートの死の20日前の1894年1月まで、往復書簡331通が本書に収められています。一部はエッセーな

どに翻訳されていましたが、すべてを和訳したのは本書が初めてとなります。ブラームスは後年「ドイツ3大B」といわれる大作曲家に成長しますが、1860年代は決して「売れる」作曲家ではありませんでした。

しかし、ビルロートはブラームスの精神性の高い作品に惚れ込み、ブラームスを精神的、物質的にサポートしていきます。他方、ブラームスは作品の発表前に楽譜をビルロートに見せて、評価を求めます。そして皆でビルロート邸にて予演会を開く、そんなやり取りが繰り返されます。その中で自然と「チーム・ブラームス」的なものが形成されます。音楽評論家のハンズリック、ピアノのクララ・シューマン、ヴァイオリンのヨアヒムらが中心になります。最大の推進力はビルロートであったと思います。ブラームスの書簡は電報のような短いものが多いの

ですが、ビルロートのそれは、重厚で長文。ブラームスの交響曲第一番、ピアノ協奏曲第二番に対する感想文のようです。「ワルキューレ」を鑑賞したあとのワーグナー批判は、ブラームスを介してハンズリックの手で発表されています。賛否は

松永正訓(昭62)著

## 「ドキュメント 奇跡の子

## トリソミーの子を授かった

## 夫婦の決断」

新潮新書 定価 924円(税込)



生まれた直後に気管内挿管を受け、人工呼吸器につながれます。ここから先は、手術の連続になります。

- ・先天性食道閉鎖症
- ・心奇形による肺高血圧症
- ・肺のう胞
- ・気管軟化症
- ・肝芽腫(肝臓にできる小児がん)
- ・気管出血

両親は、子どもに対してすべての手術を受けさせたことと決意します。全部の病気を治して、自宅で一緒に暮らしたいからです。かけがえのない家族として。医師団も総力を結集して難手術に次々に挑んでいきます。夫婦は揺るぎません。自分たちが諦めてしま

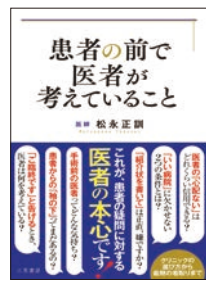
ともかく、一読の価値があると考えます。終生つづくと思われた二人の友情ですが、そうはいかないのが世の常でしょう。二人の間の行き違いは修復されることなく、ビルロートの死をもつて終了するので。

松永正訓(昭62)著

## 「患者の前で医者か

## 考えていること」

三笠書房 定価 1,540円(税込)



医療の2025年問題。ご存じですよね? 1947~1949年生まれの「団塊の世代」の出生数はおよそ800万人。この人たちが、2025年には75歳以上の後期高齢者になります。なんと、国民の5人に1人が後期高齢者という超高齢化社会です。

その方々を支える労働人口は先細りですから、医療・介護・年金制度などに大きな支障をきたすことが予測されます。日本はもともと人口あたりの医師数が少なく、2019年の資料では、OECD(経済協力開発機構)36カ国の中で人口比の医師数がワースト5です。

少ない医師で多くの高齢者をケアしなくてはなりません。この構造は2025年以降もずっと続くでしょう。

では、問題は高齢者医療だけでしょうか。少子化の時代の現在において、小児クリニックが閑散としているかというところ、そうではありません。子どもの数が減れば減るほど、一人の子どものかかる親の愛情は年々強まっているように私には見えます。

昭和の時代でしたら、子どもが少々の風邪をひいても親が医療機関へ子どもを連れていくということはなかったように思います。軽い擦り傷や切り傷は、自宅の救急箱(って死語ですか?)の処置セットを使っ

て親が子どもの怪我の手当てをしていました。

でも、今はそういう時代ではありません。子どもに何か体調変化があれば、親は心配になって子どもを連れて医師のもとへ行きます。高齢者医療も小児医療もこれからますます重要性が増し、医師と患者さん(とその家族)は関係性を大切にしたいかなければなりません。

この本は、三笠書房の編

埼玉るのほな会

埼玉医大病院の働き方改革… 医師の勤務時間について

埼玉医科大学病院 副院長 市岡 滋 (昭63)



集部の執筆依頼から生まれ... 関係がますます大事になる... この時代において、患者さん... 側からすると医療に対して... 数々の疑問や不満がある... というのを、編集部から... 教えていただきました。

2024年4月から医師の働き方改革が始まった。小生は副院長としてタスクシフト・シヤアを担当しているが、2022年夏頃の準備段階においては医師の勤務時間をどのような体制にするかが大きな課題であった。その際に様々調べて議論した。そこで得た知識を忘れないように、また当院のやり方が他施設の参考になればと思いここに記す。

固定時間制を当てるのは無理である。そこでこれまで埼玉医大では裁量労働制を採用してきた。研究開発、コピーライター、ゲームソフトウェア

開発、映画監督、新聞記者など勤務時間が9:00~18:00のように決まっていると仕事がつらい職種がある。これらに対し働く時間を労働者の裁量に委ね自由な時間を使えるようにし、より高い仕事の成果を生み出し、さらにも8時間労働したとみなす(図1)。

門型は業務の性質上、その遂行の方法を大幅に労働者の裁量に委ねる必要がある職種に適用できる(図2)。その職種の1つに「大学の教授、准教授、講師の研究業務」があり、当院ではこれを採用し、働き方改革の後も継続する予定であった。しかし厚生労働省と医師会は大学病院の医師でも裁量労働制の適用はかなり限定されるとの見解を示した。大学講師または助教といった職位にありながら、早朝から深夜まで病院内で勤務している多くの医師(大学教授員)を裁量労働制で労働契約することは問題である。毎日12時間働いても8時間とみなされ残業代も出ない

のはおかしいという理由である。そして大学病院においても医師の労働時間を雇用主が把握してデータを提出することが求められた。これまでと同じように裁量労働制を続けることができず、新しい方法を探ることになった。着目したのは変形労働時間制とフレックステクス制である。事業所の繁忙期と閑散期がある程度決まっている場合、その時期に合わせて労働時間を調整できる制度である(忙しい時に労働時間を長くし、暇な時は短くする)。法定労働時間を月単位・年単位で調整することも、勤務時間が増加しても時間外労働として扱わなくてもよくなる。1週間単位の変形労働時間制は、多忙な日と暇な日の差があったり、天候によっても集客に差が出やすい小売業、旅館、料理店、飲食店に適用される。1か月単位の変形労働時間制では1か月内の労働時間を平均すると1週間あたりの労働時間が40時間以内になるよう調整する。月末は忙しいが月初めは暇な会社では月末に労働時間を集中させることができる。運送業、タクシー運転手、経理職などが例である。1年単位の変形労働時間制は1年を通して業務の繁忙がはつきりきままっている

私も患者として医療を受けた経験がそれなりにあるので、患者さんの医療側への不満とか不信はそれなりに分かってはいるつもりです。また同時に、医療の側にも、それなりの「言い訳」があります。本書では、医者が患者を前にして考えていることをていねいに説明しています。

最も一般的な労働時間制である。労働基準法32条では「1日8時間、週40時間」という勤務時間が決められている。これを月々金曜日の9:00~18:00(休憩1時間)などと勤務日時を固定する方法で事務職、工場労働者をはじめ多くの職場で採用されている。しかし大学病院の医師は緊急手

もともと労働基準法32条では「1日8時間、週40時間」という勤務時間が決められている → 通常は9:00~18:00など勤務時間が決まっている。しかし、研究開発、コピーライター、ゲームソフトウェア開発、映画監督、新聞記者など勤務時間が決まっていると仕事がつらい

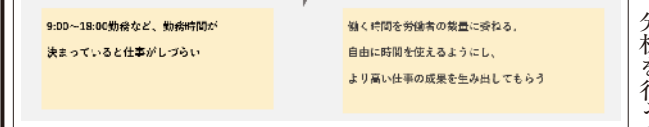


図1 裁量労働制の目的

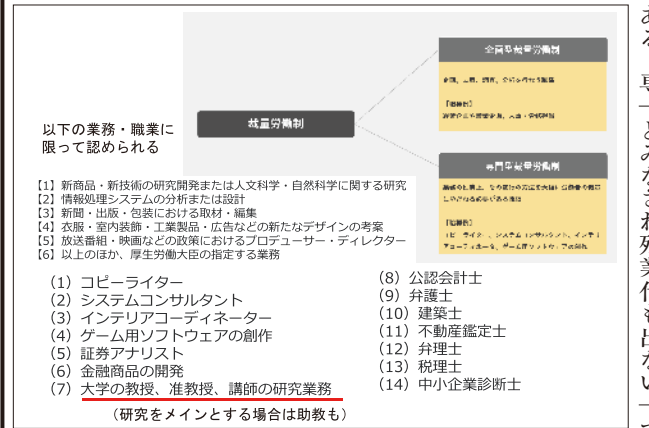


図2 裁量労働制の種類

Table showing a 40-hour/week fixed-time schedule. The week starts at 7:00 and ends at 21:00. Research days are from 9:00 to 18:00. Public holidays (公休) are shown on weekends and specific days.

図3 40時間/週を固定時間制に準じた場合のタイムスケジュール

あるいは予想できる職種に適する。建築業界、引越し業者、企業の人事部などがこれにあたる。

調査するうちに興味深かったのは、変形労働時間制ではないが船員の休暇の取り方である。長期間勤務・

長期休暇を基本とし、2か月乗船・20日休暇、3か月乗船・1か月休暇、6か月乗船・3か月休暇といった勤怠リズムとなる。労働時間については労働基準法ではなく船員法によって原則1日8時間、週平均40時間

と規定されている。(4)フレックス制 一定の期間についてあらかじめ定めた総労働時間の範囲内で、労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることのできる制度である。

(5)埼玉医大病院医師の新しい労働時間制度 当院では裁量労働制に代えて月単位の変形労働時間制とフレックス制をミックスした方法を取ることにした。様々な事情で所定労働時間を越えた分を別の所で勤務時間を短くするか休みにして月の残業時間を抑制するように各自が調整する。

6。または土曜日を終日8時間休みにして週40時間に辻褄を合わせる(図7)。残業時間を解消するための休みを「調整休」と名付けた。このように1日の労働時間を可変とする、出勤・退勤の時刻をフレキシブルにする、調整休を作るといったオプションを設定し、月単位で平均週40時間の労働に近くなるよう調整する。裁量労働制が過重な勤務を招くという一般論が存在する。しかし、大病院医師にとって裁量労働制における裁量権と自由度の高さは、給与が低いことを代償するメリットのある制度とも言えた。そのメリットをなるべく損なわないよう変形労働時間制とフレックス制を組合せ、各料や個人の事情に合わせて自由でメリハリのある働き方ができる方法を考案できたと思うが、まだ始まって3か月しか経過しておらず評価や修正はこれからである。

連続勤務時間制限、日当直許可、夜間・休日の救急体制、各科の当直、オンコールなどまだまだ問題山積であるが、キリがないので今回はここまでとする。(埼玉みのはな 第25号 2024年8月より転載)

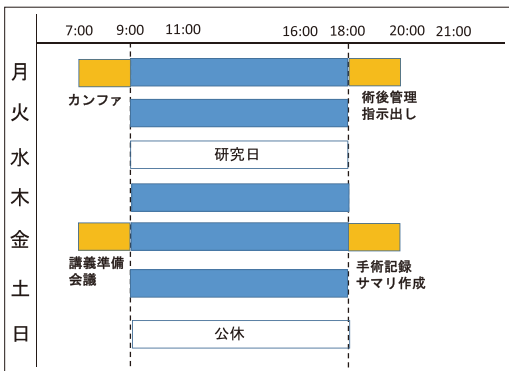


図5 月曜と金曜に4時間ずつの過剰勤務が発生した場合

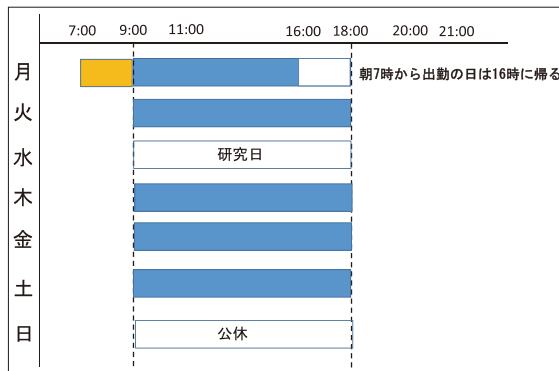


図4 1日単位で労働時間を8時間に調整

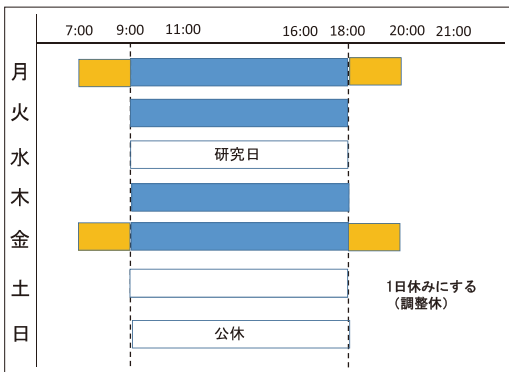


図7 土曜を終日休みにして調整

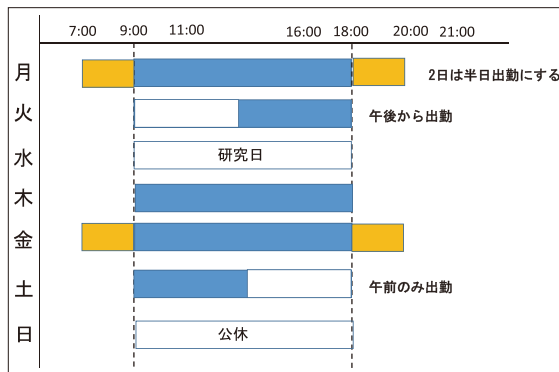


図6 火曜と土曜を半日勤務にして調整

も1日単位で8時間に調整することができ(図4)。

月曜日は朝7時からカンファレンス、夜は術後管理や指示出しで20時までトータル8時間+4時間の勤務、金曜日朝7時から会議や講義準備があり、帰りも種々業務で20時になったとする(図5)。

この場合、過剰になった4時間X2の労働時間を火曜日は午後から出勤して4時間勤務、土曜日は午前のみ4時間勤務とする(図

栃木県みのはな会 総会のお知らせ

日時：令和7年(2025年)1月26日(日) 14時

会場：ホテルマイステイズ宇都宮 9F ルシルA  
栃木県宇都宮市東宿郷2-4-1  
TEL：028-632-7777  
駐車場有(立体)

総会：14:00~15:00

特別講演：15:00~16:00  
演者 大塚 将之 先生  
千葉大学大学院医学研究院  
臓器制御外科学 教授

懇親会：16:00~

東京みのはな会 新年会のご案内

日時：令和7年(2025年)1月18日(土) 16:00~20:00

会場：銀座アスターお茶の水賓館  
東京都千代田区神田駿河台4丁目3  
新お茶の水ビル21階  
TEL：03-3293-8011

【次第】  
理事会 16:00~16:40  
特別講演 16:40~17:40  
・土肥美智子先生(H3卒) 立教大学スポーツウエルネス学部特認教授・日本サッカー協会診療所院長  
※パリ五輪日本代表副団長としてのパリ五輪やご専門のスポーツ医学についてお話いただきます。  
Short Speech 17:40~18:40  
・野村征太郎先生(H17卒)  
東京大学 循環器内科 特任准教授  
・長谷川麻衣子先生(H12卒)  
千葉大学大学院医学研究院 麻酔科学 教授  
・大平健司先生(H25卒) 静岡赤十字病院 放射線科

懇親会：18:40~20:00



# 埼玉るのはな会 第25号 2024年8月

## 埼玉のはな

千葉大学医学部のはな同窓会埼玉県支部  
第25号 2024年8月



### 埼玉のはな 第25号 2024年(令和6年)

#### 目次

◎ご挨拶			
巻頭言		吉川廣和	1
◎お知らせ	埼玉県支部総会のご案内		2
◎お祝い			
百寿	百寿を迎えて	鈴木忠男	3
喜寿	喜寿まで生きました	小川高雄	4
就任	埼玉のはな同窓会の先生方へのご挨拶	中嶋博之	9
◎話の広場			
随想	29会	永田一郎	12
	郷に入っては郷に従え?	松本 生	13
	開業して30余年	野口哲夫	16
	冬の雨	中島 透	19
◎書籍紹介			
	玉砕の硫黄島に生きた「混成第二旅団野戦病院」		
	野口 巖 著(文芸社)	伊藤 博	20
◎趣味			
短歌	日常篇目録(其の三)	根岸敬矩	24
趣味	画廊クリニック	上野 泉	29
	天体写真録(13) カラー化開始記念!		
	宇宙はこんなに カラフルです!	杉浦敏之	36
◎病院近況			
	獨協医科大学埼玉医療センターの近況		
	ロボット支援下手術について	吉富秀幸	46
	埼玉医科大学病院働き方改革		
	医師の勤務時間について	市岡 滋	49
	埼玉県立がんセンター・消化器内科の近況報告		
	と医者夫婦の日常の1コマ	清水 伶	53
◎埼玉支部から			
	ご挨拶とお願い・令和5年度埼玉県支部決算報告	中村 勉	55
	年会費納入者名 お祝いとお悔やみ		56
	埼玉県支部規約		57
	お願い・原稿募集		58
	表紙写真のご案内	今野 慎	59
	編集委員・編集後記	今野 慎	60

# 栃木県のはな会 令和6年 第21号

## とちぎのはな

令和6年 第21号



### 栃木県のはな会

千葉大学医学部のはな同窓会栃木県支部

### とちぎのはな 第21号

#### \*\*\*\*\* 目次 \*\*\*\*\*

◎巻頭言	森本 直樹(平3卒).....	1
◎総代会		
	令和6年度 栃木県のはな会 総会プログラム.....	2
	令和5年 会計報告..... 吉住 博明(平11卒).....	3
	監査報告..... 戸邊 豊純(平1卒)、穴戸 忠幸(平8卒).....	3
	令和6年栃木県のはな会総会.....	4
	総会写真.....	5
	栃木県のはな会総会参加で得たもの..... 吉原 俊雄(昭53卒).....	10
◎特別訪談		
	食道癌の最新治療戦略..... 松原 久裕(昭59卒).....	11
◎関連病院だより		
	自治医科大学櫻2024..... 川平 洋(平4卒).....	13
	とちぎメディカルセンターしもつかの近況..... 北林 宏之(平12卒).....	15
	足利赤十字病院の近況..... 瀬尾 雄樹(平18卒).....	16
	済生会宇都宮病院の近況..... 戸邊 豊純(平1卒).....	17
	上都賀総合病院の近況報告..... 吉住 博明(平11卒).....	18
	獨協医科大学下部消化管外科..... 石塚 満(平3卒).....	19
◎記事記		
	門脇 淳先生を偲ぶ..... 星野 聡(昭43卒).....	21
◎エッセイ		
	みのはな会員であることへの感謝..... 本多 陸人(昭42卒).....	22
	開業一いまだ医療の現場へ..... 十川 康弘(昭55卒).....	25
	那須のお土産..... 穴戸 忠幸(平8卒).....	27
	西千葉キャンパス・実業キャンパスの思い出..... 関口 真紀(昭57卒).....	28
◎プロフィール		
	かみま泌尿器科クリニックを開院いたしました..... 金水 英俊(平8卒).....	32
	ご挨拶..... 佐野 渉(平3卒).....	34
	桂 蒼太(平30卒).....	35
	照井 慶太(平10卒).....	36
	照井エレナ(平9卒).....	37
◎表紙写真・編集後記		38
◎会員名簿		39
◎栃木県のはな会 会則		42

# 令和6年度 第2回理事会議事要旨 (ZOOM会議)

日時：令和6年10月24日 (木) 18時

出席者：

吉原俊雄 (会長)

栗原正利 (副会長)

白澤 浩 (副会長)

伊藤達雄 (参与)

赤倉功一郎 安西尚彦

石川詔雄 伊藤彰一

井上賢治 上田真喜子

北野慎一郎 黒木春郎

小島広成 齊藤光江

島 正之 諏訪敏一

諏訪園靖 高橋宏和

田邊政裕 鶴田好孝

林田和也 ピアス洋子

星野 聡 三科孝夫

宮本恒彦 森本直樹

横須賀忠 森田弘之

(敬称略)

吉原俊雄会長が議長となり協議が進められた。

## 1. 報告事項

### (1) 予算執行状況 (中間報告)

諏訪園靖理事より資料に基づき、収入について、会費は現時点で昨年度とほぼ同額の納入であり、会費請求振込用紙を総会案内、6月の会報、9月のINOHANA NEWSの送付時に同封している。メモリアル事業 (DVD作成) につ

と報告がされた。  
(2) 医学部旧本館DVD寄附状況、その後の経過  
吉原会長より、9月30日現在の寄附者については少なくなってきたので、何れは千葉大学医学部の新入生に配布するなど在庫の扱いを今後検討したいとの説明があった。  
(3) 150周年記念文集について  
白澤浩副会長より、正文社に依頼している表紙の4案と4つのパートおよび千葉医学年表を巻末に綴じ込み (三つ折り)、ページ数は120ページ、PDFで作成するなどの報告があった。現在は初稿の段階で2稿は年内に終了したいと考えている。吉原会長から提案のあった配布部数が約2,500部なので、見積りどおりの3,000部の作成を予定している。

吉原会長より、毎年芸術活動助成金として20万円を助成しているのはな美術展が、今年は第49回が9月9日から15日まで銀座・向日葵画廊で開催された。先日、部長の橋本英昭先生 (昭45年卒) から、出品者の高齢化や会場等の問題から第50回 (2025年9月8日~14日) で閉会したいとのご連絡をいただいた

(5) ホームカミングデーについて  
令和6年11月17日 (日) 医学系総合研究棟3階第1講義室にて開催する事が報告された。

表紙のロゴマークに「Begin continue」を入れるindexの肩書は削除することとした。  
(4) 展示用年表について  
田邊政裕理事より、147年版に情報を追記して150周年版歴史年表を作成し、医学系総合研究棟3Fのアクティブラーニングスペースに展示しているとの報告があった。

医学部の附属病院あるいは同窓会館で開催した方がふさわしい内容なので、千葉での開催が良いとの意見もあるため、シンポジウムの開催についてのご意見を事務局までメールで伺うこととした。

吉原会長より、胸像除幕式のご案内と附属病院が150周年として企画した「いすみ鉄道ロゴ入り列車出発式」の掲載の他に、ロサンゼルスオリンピックで金メダルを取ったパロン西さんの甥である松本史先生 (昭36年卒) にパリ・オリンピックの総合馬術団体で銅メダルを取った方々をご挨拶に見えた寄稿文を急遽執筆いただいた。INOHANA NEWSを発行したのは、総会号から次号の発行までの準備期間が短く、また経費等の問題もあるため、来年以降の会報は総会号 (6月) と新年号 (1月) の年2回とし、その間にINOHANA NEWSを発行することにしたと報告があり、承認された。

除幕式の参加者は60名ほど。スケジュールについては晴れの場合と雨天の場合を考え、雨天の場合はテントを張って対応。除幕式の開始は13時からで40分ほどの予定。小宴では長尾先生の人となりなどを説明。台座周辺の木の伐採。旧本館のDVDを作成者に銅像の作成過程の動画作成を依頼して、のはな同窓会のホームページで公開できる予定などが説明された。

栗原正利副会長より、昨年の8月からスタートした長尾精一胸像再建について11月5日に出来上がる予定で、設置は11月12日に決まった。本来の台座の向きは参道側になっているが、この場合は旧本館や研究棟に向いていない、西門も現在裏門になっているので、総務会では正面の向きを旧本館側にする事になった。

いききたいとの説明があり、承認された。

吉原会長より、長尾家の方が式典後に同窓会館での小宴に参加されるので、理事の先生方にご配慮をお願いしたいとの説明があった。  
(4) 千葉大学基金寄附依頼の同窓会報への同封について  
例年どおりと報告された。  
(5) 各支部・各県 会員日より  
四国のはな会は2014年まで開催され、2007年の名簿では50名ほどが在籍していたが、現在は20名ほどとなっている。他の支部についても活動していない地域もあるので、会報に会員便りの項目を設け、各県の近況報告を掲載したいと考えている。編集委員会とも相談し、執筆依頼をする。また、千葉県内の人事異動の掲載は必要ないので、その意見もあるため、会報の掲載内容も検討して



## お詫びと訂正

195号

3面 4段目  
人事異動 准教授

左から6行目  
麻酔・疼痛・緩和医療科

←  
心臓血管外科

黄野 皓木 (平7)

INOHANA NEWS  
2024

3面 8行目

鹿野 利里子

←  
鹿野 由利子

お詫びして訂正させていただきます。

# 第18回

# ちば Basic & Clinical Research Conference

令和7年1月30日(木) 12:50-17:00 於あのはな記念講堂

総司会: 医学部4年 北島真綾, 2年 竹下光英  
本会はスカラシッププログラムの講義の一つとなっています

## 12:50 開会の辞

千葉大学災害治療学研究所 災害情報解析研究部門教授 小野寺 淳先生  
ちばBCRC学生事務局 代表 医学部1年 鈴木 雄大

## 13:00 学生発表

座長: 医学部5年 神津 隆之介, 4年 安田 圭一郎

胃癌におけるヘテロクロマチン異常活性化の解明

—— 医学部3年 横山青柚 (分子腫瘍学)

Drug repositioningによる進行前立腺がんに対する新規治療戦略

—— 医学部5年 小田裕也 (泌尿器科学)

スイカズラ科植物 *Dipsacus fullonum* の成分探索研究

—— 医学部3年 吉田拓之慎 (薬学部中分子化学)

老化に伴う Cytotoxic CD4<sup>+</sup> T細胞の分化誘導メカニズムの解明

—— 医学部4年 吉沢康隆 (免疫発生学)

CD69分子による胸腺内制御性T細胞の分化制御機構

—— 医学部3年 笹山大遥 (実験免疫学)

シングルセル RNA 解析による臓器特異的な血管内皮細胞のストレス応答の解明

—— 医学部4年 椎名萌子 (分子病態解析学)

T細胞受容体の親和性に基づく CD8 T細胞の機能分化運命決定機構の解析

—— 医学部3年 神尾真美 (実験免疫学)

## 14:30 講座紹介

座長: 薬理学教授 安西 尚彦先生

全力で走れ! —免疫学・治療学研究へのいざない—

—— 免疫発生学教授 平原 潔先生

月経関連疾患を克服するには?

—— 産婦人科学教授 甲賀かをり先生

## 15:20 表彰

機能形態学教授 山口 淳先生  
あのはな同窓会長 吉原 俊雄先生  
千葉大学大学院医学研究院院長 三木 隆司先生

## 15:30 講評

千葉大学大学院医学研究院院長 三木 隆司先生

## 15:55 特別講演

座長: 千葉大学理事 中谷 晴昭先生

希少難病を迫及してヒトの老化に迫る

—— 千葉大学学長 横手 幸太郎先生

## 16:55 閉会の辞

機能形態学教授 山口 淳先生

世話人(敬称略)

徳久剛史, 中谷晴昭, 高橋和久, 白澤浩  
安西尚彦, 中島裕史, 大鳥精司, 山口淳  
小野寺淳, 坂本明美

主催: 千葉大学大学院医学研究院・医学部

共催: 千葉医学会, あのはな同窓会,  
ちばBCRC事務局

(鈴木雄大, 向坊颯, 神津隆之介, 北島真綾  
神前政智, 安田圭一郎, 椎名萌子, 清野日香  
嶋崎悠斗, 原田千穂, 竹下光英, 菅原慎太郎  
日野鶴乃, 門田友宏, 千葉紀世, 金貴煌  
金本拓海, 喜瀬太智)

千葉大学バイオメディカル研究センター内  
担当: 坂本明美 (内線7901  
sakamoto@faculty.chiba-u.jp)

高梨 齋藤 田部 山崎 佐藤 漆原 東郷 中村 竹内 川島 久我 宮内 井手 市川 池田 矢島 齋藤  
 健全 全彦 英甫 英甫 理夫 七仁 達裕 裕郎 邦男 嘉衛 忠子  
 (昭37) (昭37) (昭36) (昭35) (昭35) (昭33) (昭33) (昭32) (昭32) (昭32) (昭26) (昭25) (昭25) (昭25) (昭24) (昭24)  
 (昭37) (昭37) (昭36) (昭35) (昭35) (昭33) (昭33) (昭32) (昭32) (昭32) (昭26) (昭25) (昭25) (昭25) (昭24) (昭24)

おくやみ

田村 倉重 野首 佐藤 江口 関根 林内 山内 平野 北原 中村 篠原 忍頂 那須 門脇 渡辺  
 憲 二郎 光弘 修 正 明 弘 聡夫 欽哉 信賢 紀彰 武 淳 實  
 (福井医大・平3) (福岡大・平3) (昭62) (昭62) (鹿児島大・昭61) (北海道大・昭55) (帝京大・昭53) (昭49) (昭49) (昭46) (昭46) (昭45) (昭45) (昭42) (昭41) (昭41) (昭37)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。るのほな同窓会報第196号をお手にとつてご覧いただいたみなさま、誠にありがとうございます。今号から編集委員長として編集に参加させていただきます。ご寄稿いただきましたみなさま、編集校正のご指導をいただきました先生方、同窓会事務の方々に厚くお礼申し上げます。今後ともひきつづきどうぞよろしくお願ひ申し上げます。昨年、千葉大学医学部として共立病院の開設計念事業の一環として千葉医学歴史年表の制作にまつわる手記を寄稿していただきました。あらた

めて年表を拜見して、教育、研究、医療の三本柱を基盤として世界に冠たる千葉大学医学部の伝統を築いてこられた諸先輩方のご功績に感服する思いでした。千葉医学歴史年表は医学系総合研究棟3階のアクティブ・ラーニング・スペースに展示されていますので、ぜひ玄鼻に御用の際は立ち寄りいただきご覧ください。今年、は次の150年の元年です。新たな150年、るのほな同窓生のみならず、さまざまな形で未来を創る力となることを願っています。同窓会報がみなさまをつなぐ架け橋であり続けられるよう努めたいと思います。

菱木知郎 (平5)

会報196号編集委員

- 菱木 知郎 (平5) 編集委員長
- 杉田 克生 (昭54) 白澤 浩 (昭57)
- 剣持 敬 (昭58) 今野 慎 (昭62)
- 小島 広成 (平3) 宍戸 忠幸 (山梨医大・平8)
- 大西俊一郎 (平17) (敬称略)

千葉医学100巻3号 2024年6月  
 最終講義 腫瘍内科学の展望 ~黎明から発展へ~ 滝口裕一  
 研修報告 2023年度予防医学センター主催 大学院医学薬学府ヨーロッパ研修開催に向けた準備過程の報告 - ENGINEの先への一考 戸高恵美子  
 フランス コート・ダジュール大学での共催集中講義を終えて 頼名 幸 戸高恵美子 坂部 貢 山本 緑 佐藤圭吾 森 千里  
 学会 第1492回千葉医学会例会・第44回歯科口腔外科例会 諏訪園 靖  
 編集後記 第99回千葉医学会学術大会 Chiba Medical Journal  
 Original Article Perioperative management for patients with lung cancer on dialysis: a retrospective study Hiroki Matsumoto, Hidemi Suzuki, Kazuhisa Tanaka, Yuichi Sakairi Tadanaga Shimada, Noriyuki Hattori, and Ichiro Yoshino  
 Practice Report Graduate school international study tour in Geneva visiting UN Organizations and other international institutions Keigo Sato, Emiko Todaka, Miyuki Tonna, and Chisato Mori

千葉医学100巻4号 2024年9月  
 最終講義 心機展開の精神医学とその底流 - 千葉大精神科スタッフとの協働を振り返って - 伊豫雅臣  
 研修報告 2023年度予防医学センター主催 日独シンポジウムと日独共催集中講義開催報告 戸高恵美子 頼名 幸 佐藤圭吾 佐久間里子 山本 緑 森 千里  
 エッセイ 患者・市民参画 (PPI) における眼科分野のエンゲージメント 菅原岳史  
 学会 第1489回千葉医学会例会・令和5年度内分泌代謝・血液・老年内科学例会 第1505回千葉医学会例会・第41回千葉精神科集談会  
 100巻記念特集号によせて まえがき 清水栄司 野田公俊 世界水準のお気に入り雑誌Our proud and favorite journal of the global standardをめざして 瀧口正樹  
 Multiplicity of Infection (MOI) - 教科書に書かれていないウイルス学II - 白澤 浩 千葉医学、記念すべき第100巻を迎えるにあたり 松原久裕 最近の私の取り組み - 第100回記念シンポジウム「千葉医学の未来像」講演内容 - 中田孝明 花澤豊行

編集後記 第99回千葉医学会学術大会 第16回 (2024年度) 千葉医学会賞・奨励賞 受賞者決定 Chiba Medical Journal  
 Original Article Integrating low-frequency electrical stimulation with complementary and integrative health therapy Akiko Suganami, Masayuki Goto, and Yutaka Tamura  
 Inter-examiner variability in three-dimensional kinematics of manual ankle anterior drawer test Seiji Kimura, Satoshi Yamaguchi, Hirofumi Nakajima, Shintaro Hanawa Yuki Shiko, Yohei Kawasaki, Manato Horii, Shotaro Watanabe Takane Suzuki, Takahisa Sasho, and Seiji Ohtori

千葉医学100巻5・6合併号 2024年12月  
 最終講義 レガシー・ポートフォリオ 社会疫学・地域包括ケア・JAGES 近藤克則  
 話題 「コギト・エルゴ・スム」の語源的解釈 杉田克生 池田黎太郎  
 千葉医学会奨励賞 冠動脈疾患における多角的な生理学的評価の検討 山崎達朗  
 学会 第1484回千葉医学会例会・第13回臨床研修報告会 第1501回千葉医学会例会・第49回千葉泌尿器科同門会学術集会 第1509回千葉医学会例会・第50回千葉泌尿器科同門会学術集会 第1506回千葉医学会例会・第57回麻酔科例会・第85回千葉麻酔懇話会 第1507回千葉医学会例会・第1回千葉大学社会医学同門会例会  
 研究報告書 2023年度猪之鼻奨学会研究助成金研究報告 岩瀬博太郎  
 編集後記 第17回 (2025年度) 千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について 第18回ちば Basic & Clinical Research Conference開催のお知らせ 100巻総目次・索引 Chiba Medical Journal  
 Original Article Characteristics of people who do not report sex crimes: considering a hypothetical situation Rina Sasaki, Isao Yamamoto, and Eiji Shimizu